



令和7年度

(対象年度：令和6年度)

嘉手納町教育委員会
点検・評価報告書

嘉手納町教育委員会

《はじめに》教育委員会の点検・評価制度の概要

1 点検・評価について

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関する学識経験者の意見を活用して、事務の点検及び評価を行い議会に提出するとともに公表いたします。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（前条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価委員氏名

点検評価の客観性を確保するため、外部の方々（点検評価委員）のご意見、助言をいただきました。ご意見をいただいた方は、次のとおりです。

点検評価委員名簿

氏 名	
森 力 (もり ちから)	琉球大学教職センター 教授
神山 吉朗 (かみやま よしあき)	元嘉手納町副町長
仲宗根 朝也 (なかそね ともや)	東区自治会長

教育総務課

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	5事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果
			B	5事業	B:目標達成する成果
			C	事業	C:目標達成に至らず
			D	事業	D:未執行

本課における事業の総括

施設面では、各学校・園舎の点検と必要な修繕に加え、学校からの要望に応じた改善も行った。主な取り組みとして、「嘉手納町立学校施設維持関連事業」では、児童・生徒の安全確保と学習環境の向上のため、熱中症対策工事や防犯機能の強化、老朽化した門扉の更新工事を実施した。

また、「ICT 教育推進事業」では、教育 DX と ICT 教育を推進するため、教育情報セキュリティポリシーの改訂や町立小中学校のネットワークアセスメントを行うとともに、新設教室等に無線 LAN 環境を構築した。

さらに、「嘉手納町学校施設長寿命化事業」においては、嘉手納中学校で屋上防水及び外壁の改修工事を行い、施設の長寿命化を図った。

マイクロバスの運行は、団体活動運行において利用者が伸びた。

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 嘉手納飛行場周辺嘉手納小学校ほか6施設防音事業関連維持事業		
事業費(千円)	26,431	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	本事業は、嘉手納飛行場の航空機の離陸、着陸等の頻繁な実施等により生ずる音響で著しいものを防止又は軽減するため、防音工事を実施した嘉手納小学校、屋良小学校、嘉手納中学校、嘉手納幼稚園、屋良幼稚園、第2保育所及びきんさん保育所に設置されている空調設備を稼働させ、又は稼働し得るよう維持する。		
本事業の目標	防音工事を実施した嘉手納小学校、屋良小学校、嘉手納中学校、嘉手納幼稚園、屋良幼稚園、第2保育所及びきんさん保育所に設置されている空調設備を稼働(3月～11月)させ、維持し、本事業にて防音維持費(電気料金)の助成を受け、より良い教育環境を確保する。		
進捗及び成果	防音工事を実施した嘉手納小学校、屋良小学校、嘉手納中学校、嘉手納幼稚園、屋良幼稚園、第2保育所及びきんさん保育所に設置されている空調設備を稼働させ、又は稼働し得るよう維持した。		
課題	<p>1.空調設備の老朽化とそれに伴う機能低下リスク</p> <p>航空機騒音下で良好な教育環境を維持するには、空調設備の安定稼働が不可欠である。しかし、一部の施設では設備の導入から長期間が経過しており、経年劣化による突発的な故障や性能低下のリスクが高まっている。空調設備は最も古い機器で供用開始(平成12年度)から25年が経過し、機器の損耗が著しい状況である。</p> <p>2.感染症対策としての換気と空調負荷の適切な両立</p>		

	<p>国の補助金は、授業時間中の航空機騒音を避けるための空調設備使用を対象としている。一方で、感染症対策として定期的な換気が求められるが、過度な換気は外気を大量に取り込み空調設備に多大な負荷をかけ、電力消費の増大や機器の寿命を縮める一因となる。そのため、効果的な換気を適切なタイミングで実施し、空調負荷を抑制する具体的な仕組みが求められる。</p> <p>3. 補助金事業の目的に沿った、確実かつ効率的な運用</p> <p>本事業は、補助金の算定基準である「授業時間中の使用実績」に基づき、適正に執行される必要がある。教職員等が、事業目的や補助金の趣旨を理解し、設定温度の遵守や適切な使用方法を徹底することが、継続的かつ効率的な事業運営の基盤となる。</p>
対策	<p>1. 計画的な設備更新の推進による教育環境の安定化</p> <p>設備の老朽化が著しい空調設備から優先的に更新の準備を進める。計画的な更新を行うことにより、突発的故障による授業への影響を未然に防ぎ、安定した教育環境の確保と維持管理コストの平準化を図る。</p> <p>2. 二酸化炭素濃度測定器の活用による換気の実施</p> <p>各施設に配備した二酸化炭素濃度測定器を活用し、室内の二酸化炭素濃度を常時監視する。一定の基準値に達したタイミングで換気を行い、「換気の質の担保」と「空調設備への負荷の抑制」を両立させる。これにより、快適な学習環境を維持しつつ、電力消費を最適化し、効果的な空調設備の運用を実現する。</p> <p>3. 定期的な保守点検と運用ルール の周知徹底による機能維持</p> <p>年間保守業務委託契約に基づき、専門業者による定期的な点検及びメンテナンスを継続して実施する。これにより、設備の健全性を維持し、大きな修繕に至る前の早期対応に努める。また、改めて学校施設管理者に対し、補助事業の趣旨、適切な稼働時間や設定温度等の運用ルールを周知徹底することで、事業目的の達成と効率的な設備運用を推進する。</p>
点検評価員 のご意見	<p>○「空調の設備への負荷の抑制」からも二酸化炭素濃度測定器の活用と換気については、各小中学校との情報交換に努め、適切に空調設備が運用できるようにしてほしい。</p> <p>○空調設備の維持管理と適切な機器更新に努めてほしい。</p> <p>○使用方法について適切な稼働につながるよう運用ルールの周知徹底を継続してほしい。</p>

事業名	2 嘉手納町立学校施設維持関連事業		
事業費(千円)	114,559	自己評価	A・B・C・D
事業の内容	町立学校施設において、各種工事、委託、修繕を行い、園児及び児童生徒が安心して学習できるよう学校施設を維持する。		
本事業の目標	安全安心な学校施設を維持することにより、より良い教育環境を確保することを目標とする。		

進捗及び成果	<p>嘉手納町立学校施設における清掃・警備委託、各種点検業務委託、屋良小学校プール遮光ネット設置工事、町立小学校非常通報装置設置工事、嘉手納小学校特別教室棟カーテン更新工事、嘉手納小・嘉手納中学校門扉改修工事、町立小学校屋内運動場バスケットボール 3P ライン敷設工事を行い、園児及び児童生徒が安心して学習できるよう施設維持に努めた。</p>
課題	<p>本町は小学校 2 校、中学校 1 校、幼稚園 2 園を有している。この数年間で本町教育施設はほとんどが更新されてきた。しかし、嘉手納中学校の渡り廊下は供用開始から36年、同校の校舎は25年、嘉手納小学校の校舎は32年が経過し、老朽化に伴う修繕等が頻発している状況である。現状の修繕は、個別の問題に対応する対症療法が中心である。今後は、学校施設長寿命化計画に基づき、大規模修繕を計画的に実施することで、場当たりの対応を減らしていく必要がある。</p>
対策	<p>令和 6 年度は、児童生徒の安全で快適な教育環境を整備するため、以下の対策を実施する。</p> <p>熱中症対策として、屋良小学校のプールに遮光ネットを設置し、学習環境を維持する。</p> <p>防犯安全対策として、全町立小中学校に非常通報装置を整備する。特に緊急時に各教室から職員室や事務室へ通報可能な装置を検討。この措置は、有事における警察への迅速な通報が可能となるため、緊急対応体制が向上する。</p> <p>今後も継続して、子どもたちが安全かつ安心して施設を利用できる教育環境を維持していく。そのため、施設不具合への即時対応に努めるとともに、定期点検と計画修繕によって施設の長寿命化を図り、総費用の抑制につなげる「予防保全」を推進する。</p>
点検評価員のご意見	<p>○安全な施設利用のためにも、施設不具合への即時対応については徹底してほしい。</p> <p>○ひきつづき計画修繕も含めた環境の維持に努めてほしい。</p>

事業名	3 マイクロバス管理及び登園(校)支援		
事業費(千円)	5,084	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<p>西浜区在住の嘉手納幼稚園児及び嘉手納小学校1・2年生の登校園を支援する。 1日3便運行 ・午前7時30分と7時45分(小1、2年生) ・午前8時00分(幼稚園児)</p> <p>通園通学のほか町内各種公的団体等の利用へ供する。</p> <p>町役場、町議会、町各種行政委員会、町立幼小中学校、町立嘉手納外語塾、各区自治会、町連合青年会、各区青年会、各区女性会、町 PTA 連合会、町子ども会育成会、各区子ども会育成会、町老人クラブ連合会、各区老人クラブ、町体育協会、町文化協会、町社会福祉協議会、各福祉団体、教育関係団体、その他公的団体</p>		

本事業の目標	町内の行政、教育、福祉等の公的団体の利用に供し、もって団体の振興に資するとともに、バスの有効適正な使用と管理を図ることを目的とする。																						
進捗及び成果	<p>令和6年度マイクロバス稼働状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">稼働 日数</th> <th colspan="2">登校登園</th> <th colspan="2">その他運行</th> </tr> <tr> <th>日数</th> <th>利用人数</th> <th>回数</th> <th>利用人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>258日</td> <td>203日</td> <td>4,375人</td> <td>293回</td> <td>10,994人</td> </tr> <tr> <td>前年 比</td> <td>12日増</td> <td>5日増</td> <td>859人増</td> <td>26回増</td> <td>138人減</td> </tr> </tbody> </table> <p>利用者への指導を徹底したことにより、安全安心な運行に寄与した。</p> <p>利用者数の状況としては、登校登園について増加、その他運行について回数は増えたが利用人数は減少となった。</p> <p>「その他運行」後の車内清掃が不十分な利用が増えてきたため、許可前の車両の操作説明の際に車内清掃のやり方の指導を強化、常に確認できるよう写真付き手順の作成を行いバスに常備した。</p> <p>新1年生の利用周知のため新入生入学説明会での周知を強化した。</p>		稼働 日数	登校登園		その他運行		日数	利用人数	回数	利用人数		258日	203日	4,375人	293回	10,994人	前年 比	12日増	5日増	859人増	26回増	138人減
	稼働 日数			登校登園		その他運行																	
		日数	利用人数	回数	利用人数																		
	258日	203日	4,375人	293回	10,994人																		
前年 比	12日増	5日増	859人増	26回増	138人減																		
課題	<p>* 学校行事利用及びその他運行の活動が活発しており、時期によってバスの利用予約が取りにくい状況が増えた。</p> <p>* 不十分な車内清掃については、数は減ってきたが不十分な状況が無くなったわけではない。</p>																						
対策	<p>* 学校行事の多忙期などの周知と町社会福祉協議会バスの利用案内も行う。</p> <p>* 引き続き利用後の清掃は許可条件となっている説明を徹底し、車両操作説明の際の指導を強化する。</p>																						
点検評価員 のご意見	<p>○車内清掃の不十分な団体が出ないように、説明方法等の工夫改善に努めてほしい。</p> <p>○清掃用道具が、ほうきとモップと雑巾くらいしかなく、グラウンドから持ってくる土はそれだけだととりにくいため、雨で靴についた泥を落としてくれる、泥落としのようなマットを使用してほしい。バスに常時乗せておくなど、マニュアルに付け加えた方がいい。</p>																						

事業名	4 ICT教育推進事業		
事業費(千円)	8,153	自己評価	A・B・C・D
事業の内容	<p>1人1台の端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、特別支援教育を必要とする児童生徒を含む多様な学習ニーズに対応できる個別最適化された教育ICT環境を構築する。これにより、公正かつ質の高い教育機会を全ての児童生徒に保障し、確実な資質・能力の育成を目指す。わかりやすい授業と情報活用能力育成のための環境整備として、小中学校へのICT機器等の整備を推進する。</p>		

本事業の目標	ICT 機器を活用した授業実施により、児童生徒の授業に対する興味・集中力を高めるとともに、情報活用能力の向上を図る。
進捗及び成果	屋良小学校特別支援学級無線 LAN 環境整備、屋良小学校及び嘉手納小学校の職員室無線 LAN 環境整備、嘉手納町教育情報セキュリティポリシー改訂、町立小中学校ネットワークアセスメント、学校ネットワーク機器ライセンス使用延長更新を行い、教育 DX 環境の整備に努めた。
課題	令和 7 年度に実施する第 2 期 GIGA スクール端末と次世代校務支援システムの導入に向け、文部科学省推奨のクラウドサービス活用の準備を計画的に進めていく必要がある。 インフラ整備と併せて、整備した環境を最大限に活用するための、教員の ICT スキル向上やデジタル教材の充実といったソフト面の施策を強化し、ハードの整備を実際の教育活動に結びつける必要がある。
対策	国や県の動向を注視し、クラウドサービス活用に向けて本町に必要な事項の調査を行い準備を進める。 ICT スキル向上のための教員研修やデジタル教材の充実を図る
点検評価員のご意見	○教員の ICT スキルの向上及びデジタル教材の充実については、具体的な取組に期待したい。 ○端末やシステムの切り替えで授業環境が停滞しないよう調査を進めてほしい。

事業名	5 嘉手納町学校施設長寿命化事業		
事業費(千円)	173,283	自己評価	A・B・C・D
事業の内容	中長期的維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現しつつ、学校施設に求められる機能を確保することを目的に、予防保全工事を実施することで施設の長寿命化を図るものである。		
本事業の目標	効率的な老朽化対策により、学校施設を維持充実させることで、児童生徒等が安心して学校生活を送り、質の高い教育環境を維持することを目標とする。		
進捗及び成果	嘉手納町学校施設長寿命化計画(令和 2 年度策定)に基づき、嘉手納中学校の予防改修工事を実施した。同校の校舎は築 25 年が経過して老朽化が進んでいるため、建物の劣化を未然に防ぐ予防保全の観点から工事を行ったものである。これにより、建物の劣化を抑制し、快適な学習環境を長期にわたって維持するための施設長寿命化が図られた。 また、令和 6 年度には屋良小学校屋内運動場の屋上防水及び外壁塗装の実施設計業務を行い、長寿命化計画を推進する準備を整えた。この結果、次年度(令和 7 年度)に確実な工事着手が可能となる体制が構築された。		
課題	本事業は児童生徒が利用する校舎を対象とするため、学校運営への影響を最小化できる夏季休業中に集中的に工事を進捗させる必要がある。夏季休業期間も含め、限られた期間内で計画通りに事業を推進していくことが課題となる。		

	<p>また、工事期間中における児童生徒の安全確保を徹底するには、学校との協議を綿密に行い、より実効性の高い安全管理体制を構築していく必要がある。</p>
対策	<p>令和 6 年度、嘉手納中学校において、老朽化が進んでいた普通教室及び特別教室の屋上防水工事、並びに外壁の塗装改修工事を実施した。本工事の目的は、建物の耐久性を向上させ長寿命化を図ることである。工事の大部分が学校運営期間中と重なるため、教育活動への影響を最小限に抑制し、生徒及び教職員の安全を確保することを最優先課題として、以下の対策を講じた。</p> <p>(1) 教育活動への影響軽減</p> <p>施工計画の策定に先立ち、学校側との協議を複数回実施。工程や作業時間、騒音・振動対策について具体的な合意形成を図った。</p> <p>ハツリ作業など、特に大きな騒音や振動を伴う工程は、生徒の登校がない夏休み期間中に集中的に実施した。また、通常授業期間中は、低振動・低騒音型の建設機械を選定・使用し、学習環境への影響を極力排除した。</p> <p>授業中の生徒が工事の様子に気を取られることのないよう、窓ガラスへの目隠しシートの設置や、粉塵の飛散を防ぐためのこまめな散水作業を徹底した。</p> <p>(2) 安全管理の徹底</p> <p>本工事は校舎の外周部が作業範囲となる一方、グラウンド等の外構部は生徒が日常的に利用する環境であった。そのため、工事用車両の進入路と生徒の通学路が交差する危険が想定される箇所には、交通誘導警備員を常時配置し接触事故や不測の事態を未然に防ぐための強固な安全管理体制を構築した。</p> <p>上記対策を徹底した結果、工事期間を通じて騒音や安全面に関する生徒・近隣からの苦情もなく、無事故・無災害で全工程を完了することができた。本工事により、良好な教育環境の維持に貢献できた。</p>
点検評価員 のご意見	<p>○工事の際には、教育活動への影響を最小限にすることや交通誘導警備員の常時配置等の安全面の配慮を徹底してほしい。</p> <p>○長寿命化を計画的に順調に進めていることは評価できる。</p>

給食センター

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	2事業	自己評価	A	1事業	A:目標を上回る成果
			B	1事業	B:目標達成する成果
			C	事業	C:目標達成に至らず
			D	事業	D:未執行

本課における事業の総括

学校給食は成長過程にある幼児、児童、生徒に必要な食事を提供するとともに、食に関する正しい知識や食習慣を身につけさせるなど教育の一環としても重要である。学校給食は安全・安心が強く求められており、当調理場においては沖縄県学校給食会と連携し、より良い食材の使用を心掛けている。

平成29年度から新調理場が稼働し、各小中学校、両幼稚園や青少年センターへ1日約1,700食の給食を提供している。平成24年度から地元生産者である町農業団体連絡協議会野菜部会の協力を得て地元産の農作物を購入し食材として使用することにより、地産地消や食育の面に寄与することができた。

学校においては、教育活動として学校給食を通じた食に関する指導を実施し、さらに、家庭の協力により望ましい食習慣の形成とよりよい食生活への理解を深めることができた。

衛生管理については、学校給食衛生管理基準に準じた衛生管理の徹底を図った。学校給食共同調理場衛生検査(年3回)、各小・中学校配膳室及び給食共同調理場内外の衛生害虫駆除(年2回)を実施、職員においては検便検査(月2回)の実施、研修会を通して調理員としての知識と技術の向上を図るなど、食中毒発生の予防に万全を期すよう努力している。

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 学校給食調理業務		
事業費(千円)	112,631	自己評価	A・(B)・C・D
事業の内容	学校給食の献立作成、調理、給食用物資の購入・検収及び衛生管理に努める。		
本事業の目標	幼児、児童、生徒に対して、栄養バランスの摂れた食事を提供するとともに、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を育む。また、安全・安心な給食の提供に向けて、より良い食材の使用と地産地消に努めるとともに、学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理の徹底を図る。		

<p>進捗及び成果</p>	<p>町内幼小中学校の学校給食年間計画により給食を実施し、衛生管理に万全を期し年間給食日数 196 日間、食中毒等の事故もなく提供することができた。本町の学校給食は、調理、配送等業務を民間業者に委託しており、委託業者の正職員が全調理員の過半数以上いるので、全調理員への指導が行き届き、調理員の技術や衛生面のレベルが安定している。また、委託業者に栄養士が常駐しているため、調理現場の指導等を委託している栄養士に任せられるため、県費負担栄養職員がアレルギー面談や食育指導、食育授業等について、年間を通して実施することができた。食育授業に関しては、学級担任と学校栄養職員による食に関するT・T授業や講演会、調理場見学会を実施し、幼児児童生徒の食に関する正しい知識や望ましい食習慣を養うことができた。</p> <p>T・T授業は「好き嫌いしないで食べよう」、「朝ごはんを食べて3つのスイッチを入れよう」、「野菜のひみつを考えよう」、「五大栄養素を自分の言葉で説明しよう」、「給食の献立を考えよう」を小学生向けで実施した。</p> <p>献立に関しては和食を中心とした米飯献立を心掛け、積極的に郷土行事の献立も取り入れた。地産地消については、地元農家から食材の提供が定着し、毎月の給食だよりを通し、地元食材を子供たちに紹介している。</p> <p>給食残渣は、生ゴミとして処分するのではなく、家畜への飼料として再利用してもらうよう、畜産農家による回収を実施している。</p> <p>また、研修会等に参加し調理技術や衛生面の向上に努めている。</p>
<p>課題</p>	<p>学校給食調理のような大量調理施設においては、安全かつ安心な給食の提供を行うため、常に衛生管理に留意し、食中毒や異物混入等の事故を未然に防止する必要がある。</p> <p>①調理場内の LED 照明が経年劣化により照度が低下し、異物の発見が困難となることで、異物混入のリスクが懸念された。</p> <p>②蒸気ボイラーおよび軟水装置において、消耗部品の摩耗が確認され、機器の不具合により調理作業が中断するおそれがあった。</p> <p>③調理場内に設置されている大型機械においても、摩耗等の経年劣化が確認され、部品の破損等が異物混入につながる可能性があった。</p>
<p>対策</p>	<p>①経年劣化が進んでいた LED 照明を新しいものに交換し、作業環境の照度を改善することで、異物混入リスクの低減を図った。</p> <p>②蒸気ボイラーおよび軟水装置の消耗部品を交換し、機器の安定稼働を確保することで、調理作業を安全に継続できる体制を整えた。</p> <p>③大型機械の摩耗箇所を点検し、必要な箇所については部品の修繕または交換を実施することで、異物混入防止の対策を講じた。</p>
<p>点検評価員 のご意見</p>	<p>○学校現場の給食の現状に即し、食育指導及び給食指導の小中学校での指導の充実に努めてほしい。</p> <p>○調理場内の施設の劣化等を把握し、部品修繕・交換等ができた点は評価できる。</p> <p>○LED照明・蒸気ボイラー・軟水装置・その他大型機械について前年度と同じ課題が発生し、前年度と同じ対策を行っている。課題改善につながる対策に変更して</p>

	<p>いただきたい。</p> <p>○学校給食における児童生徒の摂取カロリーが国の基準を下回らないよう取り組んでいただきたい。</p> <p>○食べる時間が20分だと食べる時間がないのではないか。咀嚼は健全な体を作るうえで必要である。</p>
--	---

事業名	2 学校給食費補助金		
事業費(千円)	72,442	自己評価	Ⓐ・B・C・D
事業の内容	町立小学校又は中学校に在籍する児童生徒の保護者に対して給食負担金を補助する。		
本事業の目標	町立小学校又は中学校に在籍する児童生徒の保護者に対して、教育の負担軽減を図り子育てしやすいまちづくりを推進するとともに、子育て世代の定住化促進を図ること。		
進捗及び成果	保護者への学校給食費の負担軽減を図り子育て支援に寄与した。 給食費の全額補助(児童生徒数) 屋小 353人 嘉小 581人 嘉中 405人 物価高騰により、昨年度に給食費の値上を行ったが、物価高騰が継続し、充実した給食の提供が困難となったため、物価上昇率や近隣市町村の給食費を調査し、小学校・中学校ともに月に500円の増額し、小学校5,000円、中学校5,500円の給食費補助を行った。		
課題	給食費は定額で徴収するため、物価が高騰すると充実した給食提供を維持できなくなる。		
対策	本町において給食費は全額補助により支援していることから、充実した給食を継続して提供するため、物価上昇率や近隣市町村の給食費を調査し、小学校・中学校ともに月に500円の値上を行い、小学校5,000円、中学校5,500円の給食費補助の増額が可能となった。		
点検評価員のご意見	<p>○物価高騰に応じ、給食費補助の増額ができたことは評価できる。</p> <p>○充実した給食提供の維持に努めてほしい。</p>		

教育指導課

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	11 事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果 B:目標達成する成果 C:目標達成に至らず D:未執行
			B	11 事業	
			C	事業	
			D	事業	

本課における事業の総括

令和6年度 重点事業の取り組みについて

本課における令和6年度の重点事業は、「夢実現プロジェクト」「優しさいっぱいプロジェクト」「将来に生きる学びプロジェクト」「イベント実行プロジェクト」を4つの柱とし、以下の取組を推進した。

1. キャリア教育の充実 児童生徒一人ひとりが自己の可能性に気づき、主体的に未来を切り拓く資質・能力を育成するため、小学校では多様な職業観に触れる「夢スクール」を、中学校では社会との接続を意識した「職場体験」を実施した。これらの学びを「キャリア・パスポート」に記録・蓄積することで、自己の変容と成長を可視化し、将来設計に向けた見通しを持たせた。また、総合的な学習の時間においては、地域を学び、地域に貢献する「ふるさと教育」を推進し、郷土への誇りと愛着を育んだ。

2. 生徒指導の充実 自己存在感や共感的な人間関係を基盤とした、安全・安心な学校風土の醸成に努めた。特に、不登校児童生徒が増加傾向にあることを喫緊の課題と捉え、「早期発見・早期対応・自立支援」を基本方針としつつ、SSW(スクールソーシャルワーカー)や関係機関との連携を強化した。これにより、不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた居場所づくりや学習機会の保障を図るとともに、特別支援教育支援員を効果的に配置し、全ての児童生徒が安心して学校生活を送れる支援体制の構築を進めた。

3. 学力向上の推進 本町の目指す「嘉手納の探究型授業」を中核に据え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進した。具体的には、1人1台端末を日常的に活用し、個々の学習進度に応じた「個別最適な学び」と、協働により新たな価値を創造する「協働的な学び」の一体的な充実を図った。また、PC 指導員や ICT 支援員を配置し、教員が授業改善に専念できる環境を整備した。外国語教育においては、ALT を配置し、幼児期・低学年から英語に親しむ機会を設定するとともに、担任とのチームティーチングによる授業を通して、実践的なコミュニケーション能力の育成を図った。

4. 特別活動の充実 児童会・生徒会活動や学級会を活性化させ、児童生徒が主体となる学校行事や自治的な活動を推進した。子どもたちが自らの手で学校をより良くしていく経験を通して、自己有用感を高め、通いたくなる魅力ある学校づくりを進めた。

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 町学力向上推進の充実強化		
事業費(千円)	1,500	自己評価	A・(B)・C・D
事業の内容	嘉手納町内の屋良幼稚園・嘉手納幼稚園、屋良小学校・嘉手納小学校、嘉手納中学校(2幼稚園・2小学校・1 中学校)の「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」(生きる力の育成)「基本的な生活習慣」の視点から、学校・家庭・地域が連携して取り組む。		

本事業の目標	「確かな学力」(知)、「豊かな人間性」(徳)、「健康・体力」(体)の視点で、学校・家庭・地域と連携した取組をおこない、町内の児童生徒の学力向上を図る。
進捗	<p>(1) キャリア教育の視点 キャリア教育の視点から、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりして自己評価を行うとともに、自己実現に繋げる「夢ノート」「サポートノート」の継続実践取組を行った。キャリア教育担当者とキャリアパスポートの活用、「かでなっ子ハローワーク」によるキャリア形成、取り組みの充実のための話し合いを行った。 また、学校においては、ふるさとキャリア教育の取り組みとして「夢スクール」と「かでなっ子ハローワーク」の接続、総合的な学習の時間で行われ、ふるさと教育副読本を活用した学習が展開できた。</p> <p>(2) 授業改善の充実 「嘉手納の探究型授業」による主体的・対話的で深い学びの実現のため、全教職員の ICT を活用した学習指導のスキルアップや各校の校内研修の充実のため先進校視察や講師招聘を実施し、教職員の ICT を活用した授業づくりの充実を図ることができた。</p>
成果	<p>(1) キャリア教育の視点 ①「キャリア教育担当者会」「ふるさと教育担当者会」をもち、キャリア教育の視点から、自学自習の取組や内面的な学習意欲、自己肯定感や自己実現につながる取組、児童生徒の成長を促す「キャリアパスポート・Dream パスポート」の共有と活用を進めることができた。 ②両小学校「夢スクール」を実施し、「おもしろい・やってみたい」を本物に触れるつながる「かでなっ子ハローワーク」の実践により、「自己有用感」「自己肯定感」の育成と「地域貢献」により非認知能力の育成へつながった。 ③児童生徒質問紙において「将来の夢や目標を持っている」が県、全国を上回る結果となった。 ④主体的に学びに向かう力の育成、「自立した学習者」の育成のための「夢ノート」が、中学校はタブレット端末を活用するタイプへと工夫・進化し、常に生徒が活用できるようになり、今年度も全国学調児童生徒質問紙、県児童生徒質問紙からも、児童生徒の計画をたてる「先を見通す力」の更なる向上が図れた。 ⑤小中連携の児童会生徒会の取組として、あいさつ運動の学校巡り、また、各学校で、児童会・生徒会が主体となった縦割りのレク大会を実施し、子どもたちによる企画運営で楽しい学校づくりに取り組んだ。(児童会・生徒会担当者会の実施) ⑥「ふるさとキャリア教育」に各学校が取り組むことで、児童生徒質問紙の「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」において、小中学校ともに「何かしてみたい」と今年度も肯定的な回答が全国を上回る成果となった。</p> <p>(2) 授業改善の充実 ①小・中学校の全教職員が参加する研修会を年間5回、開催したことで、目指す授業の方向性を全校で共有し、校種間の連携による相乗効果を生み出すなど、実践の着実な普及につながった。 ②ICT を活用した学習指導のスキルアップを図るため、各学校でのミニ研修会や</p>

成果

OJT、3校によるクラス別スキルアップ研修会を実施(春・夏休み)したことで先生方のスキルアップにつながった。

全国学力・学習状況調査

平均正答率	小 6		中 3	
	国語	算数	国語	数学
本町	66.0%	60.0%	56.0%	41.0%
県	66.0%	58.0%	53.0%	43.0%
全国	67.7%	63.4%	58.1%	52.5%
県との差(R5年)	+5.0	+5.0	+5.0	-3.0
県との差(R6年)	+0.0	+2.0	+3.0	-2.0

小学校は、国語(県+0.0、全国-1.7)ポイントと同等、算数(県+2.0、全国-3.4)は、全国を下回っているが県を上回る結果となった。中学校においては、国語(県+3.0、全国-2.1)県平均を上回った。しかし、数学においては(県-2.0、全国-11.5)ポイントの差があるが、少しずつ縮まりつつある。

県到達度調査(2月14日～3月14日実施)

※平均正答率[%] (県の平均正答率との差)

令和6年度	小 5	小 6	中 1	中 2
国語	52.9% (-4.3)	70.0% (+1.4)		53.1% (+7.3)
算数・数学	40.1% (-1.1)	57.0% (+1.4)	23.1% (-4.3)	23.9% (-3.9)
英語			47.5% (-0.6)	58.2% (+6.7)

小学校6年生においては、国語・算数ともに、県の平均正答率を上回り、授業改善、補習の取組の成果が現れていると捉える。小学校6年生の生徒質問紙調査からも、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところをわかるまでおしえてくれるか」との問いに、肯定的に回答した児童が多く、昨年度同様、日常的に先生方や学習支援員の丁寧な関わりが伺われる。中学校においては、2年生が国語と英語で県平均を大幅に上回った。数学においては、県平均を下回ってはいるが、学習支援員、教科担任による夏休み、放課後の補習の充実がこれまで同様に図られている。

学びのセーフティーネット

算数・数学の全国学力・学習状況調査によると正答率30%以下の生徒の割合について県との差は、以下のようになっている。

令和6年	小 6	中 3
嘉手納町	9.6%	33.5%
県	14.3%	32.0%
県との差	-4.7	+1.5

<p>成果</p>	<p>中学校数学において、正答率30%以下の生徒の数は、(R4年59人⇒R5年46人⇒R6年38人)と年々、減ってきている。全国学調後、教師が学習支援員と連携し対象の生徒を明確にし、補習につなぐ取り組みや夏休みの補習、中学3年生を対象に基礎基本でつまずいた生徒を個別の対策の取り組み等の継続が効果をだしている。</p> <p>学びのセーフティーネットの取組として、今年度は、委員会と学校で連携し基礎基本でつまずいている生徒の確実なリスト化と放課後だけでなく授業中の対策も実施し(人的支援)、できないことで諦めていた生徒が、「自分のペースで数学の問題が解けた」と達成感を得た生徒もいた。</p>
<p>課題</p>	<p>【授業改善】</p> <p>①GIGA スクール構想により、1人1台端末は整備されてきたが、学校間・教職員間で端末活用において隔りがある。実際これまで、1人1台端末を前提とした指導は新たな取組であるため、研修の機会も少なく指導技術も十分に確立されていない。(端末活用の中での学び合いの場の設定、嘉手納の探究型授業の構築)。</p> <p>②中学校期における数学の課題が、正答率30%以下(C,D層)が少しずつへっているが、いまだに喫緊の課題である。</p> <p>③「かでなっ子ハローワーク」に積極的に参加する子ども達をどう増やしていくか。</p>
<p>対策</p>	<p>①「嘉手納の探究型授業」による主体的・対話的で深い学びの実現のため、全教職員のICTを活用した学習指導のスキルアップや各校の校内研修の充実と、全教職員を対象とした研修機会を継続し提供していく。(教員のニーズに応じた研修機会の提供)</p> <p>②町全体で学習の基盤となる情報活用能力の育成を共通確認し、探究的な学びのさらなる充実を図っていく。</p> <p>③「子供ひとりたりともおいてかない教育」の実施のためにタブレット端末を活用(補習、タブレットドリル学習、AIドリルの活用)した「個別最適な学び」を情報担当、研究主任担当との連携を図る。中学校期における正答率30%以下の生徒を明確にし、委員会と学校で取り組みを継続し、支援をする生徒を明確にし、関係する職員で共有することで、効果的に対象者を確実に支援する。</p> <p>④「かでなっ子ハローワーク」の取組を多くの子どもが積極的に参加するための仕組みとして、タブレット端末やスマートフォンなどを活用して、申し込み手順の簡素化を図っていく。</p> <p>⑤取材班(子ども)による、情報発信やタブレット端末、をフル活用し広げる。「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」の思いを、「将来の夢や希望」へ繋がる、「かでなっ子ハローワーク」の取組をスタートさせる。そうすることで、子ども達が、「何かしてみたい」の思いと地域の大人に触れ、本物にふれる機会を多く持つことで、キャリア形成へ繋げ、内面的な学習意欲の向上、体験と学びを繋げ、自己肯定感や自己実現につながる取組の充実を行っていく。</p>
<p>点検評価員 のご意見</p>	<p>○基礎基本でつまずいている生徒への支援については、本人のペースを大切にしながら継続に努めていることが評価できる。</p> <p>○学校間・教職員間でのICT活用は、活用に隔りが出ないよう、研修機会の提供と具体的な取組状況の確認に努めてほしい。</p>

	<p>○キャリア教育の充実からも「かでなっ子ハローワーク」の取組は評価できる。</p> <p>○「かでなっ子ハローワーク」について実績・成果を確認したい。</p> <p>○学力調査において、国の平均を超える取組みを行ってほしい。</p> <p>○特色ある嘉手納オリジナルの強化する教科を指定し取り組んでほしい。</p> <p>○学校において、地域人材を活用し放課後時間に学習・文化などの学習に取り組んでほしい。</p>
--	---

事業名	2 教材費の一部助成		
事業費(千円)	10,601	自己評価	A (B)・C・D
事業の内容	<p>町立小中学校で使用される補助教材に係る費用について、児童生徒1人あたり8,000円を助成する。児童生徒の観点別学習状況評価に資する单元テストや、漢字ドリル、算数ドリル等の各教科などの学習指導において、児童生徒が授業を進める上で、必要不可欠な補助教材を対象とする。</p>		
本事業の目標	<p>教育福祉政策の一環で、教育費用にかかる保護者の負担軽減を図ると共に、児童生徒の健やかな成長を支援し、誰一人取り残さない学びの保障に資する。</p>		
進捗	<p>各小中学校の入学説明会において、学校長のあいさつ等の中で、町から教材費の補助があることを説明し保護者へ周知している。</p> <p>児童生徒1人あたり8,000円を上限に助成を実施した。</p>		
成果	<p>令和6年度においても、保護者の負担軽減及び児童生徒の学習の質の維持が図られたと考える。</p>		
課題	<p>①助成対象以外の教材費も物価高騰により保護者の負担となっている。</p> <p>②物価高騰に伴う教材費そのものが値上がりしている。</p>		
対策	<p>物価高に伴い、助成額の増額も検討していく。</p>		
点検評価員のご意見	<p>○物価高騰に応じ、助成額の増額について検討してほしい。</p> <p>○各小中学校における必要不可欠な補助教材について再検討してほしい。</p> <p>○保護者負担額がどれくらいになっているのか実際に調査してほしい。</p> <p>○助成額の増額は、保護者の負担がどれくらい軽減されるか金額を検証してほしい。</p> <p>○助成額がいくらより保護者負担額がいくらに下がるというのを保護者には通知してほしい。</p>		

事業名	3 幼・小・中の英会話教育の充実																						
事業費(千円)	11,138	自己評価	A・ B ・C・D																				
事業の内容	<p>町立幼小中学校にネイティブスピーカーの英会話指導員(ALT)を配置し、児童生徒の英語への興味・関心を高めるとともに、英語学力の向上を図る。 (ALT:嘉手納小学校1名、屋良小学校1名、嘉手納中学校1名)</p>																						
本事業の目標	<p>小学校では英語に親しむ環境の構築を、中学校では実用的な英語教育を目指して、教育課程特例校として取り組んできた良さを生かし、各幼・小・中学校における英語教育の充実・強化及び国際理解教育の充実と実践的コミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>【小学校】 アンケートで「英会話の授業(勉強)は好き」と答えた児童の割合 80%以上</p> <p>【中学校】 ①アンケートで「英語で自分の考えを話す・聞く・書く・読む」ことへの意欲がある生徒の割合 80%以上 ②単年度における英語検定 3 級以上を取得した生徒の割合10%以上 ③県到達度調査の中2英語の平均正答率 県平均以上</p>																						
進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目について、各校の英語担当教諭と再検討した。 ・本町の取り組んできた英語教育において、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能が具体的にどのレベルまで育っているか詳細なエビデンスを得るため、英語4技能効果測定「GTEC」を実施した。 ・小学校6年生と中学校2年生(210名+152名=362名)の詳細なエビデンスを得ることで、次の目標設定や指導実践に生かす。 ・小学校の英会話教育の充実を図るため、ALT コーディネーターと授業参観を行い、ALT の授業アドバイス(改善)及び研修会を行った。 ・小学校において CAN DO LIST を活用した。 ・中学校において英検対策講座を実施した。 																						
	<p>【アンケートから】</p> <p>① 小学校のアンケートでは、「英語の授業(勉強)は好きですか」の項目で87%が好きと回答。この値は令和5年(85%)より上昇し、目標を達成している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>令和6年</th> <th>令和5年</th> <th>令和4年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語の授業が好きですか(経年比較)</td> <td>87%</td> <td>85%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table> <p>② 小5は79%、小6は77%から79%と児童が英語の授業を楽しんでいるのがわかる。特に小学校1年生においては、100%近い児童が「好き」と答えており、「児童生徒のコミュニケーション活動が中心となるような授業づくり」を意識した各学校の取組が影響しているものと考える。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>(小学校)</th> <th>小1・2</th> <th>小3・4</th> <th>小5</th> <th>小6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語の授業が好きですか(学年比較)</td> <td></td> <td>97%</td> <td>90%</td> <td>79%</td> <td>79%</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 中学校のアンケートでは、「英語で自分の考えを話す・聞く・書く・読む」ことについて、93%を超える生徒から「英語を活用したい」と意欲的な回答を得られた。</p>			質問	令和6年	令和5年	令和4年	英語の授業が好きですか(経年比較)	87%	85%	80%	質問	(小学校)	小1・2	小3・4	小5	小6	英語の授業が好きですか(学年比較)		97%	90%	79%	79%
質問	令和6年	令和5年	令和4年																				
英語の授業が好きですか(経年比較)	87%	85%	80%																				
質問	(小学校)	小1・2	小3・4	小5	小6																		
英語の授業が好きですか(学年比較)		97%	90%	79%	79%																		

<p>成果</p>	<p>前年度の 90%からアップしている。</p> <p>④ 小学校 6 年生を対象としたアンケートから、小 1～小 5 で培われた英語力や小 6 で身につけた英語を使う機会は少しずつ上昇しているものの、日常生活においては今年度も実践する機会は依然として少ないことが読み取れた。</p> <table border="1" data-bbox="459 324 1449 472"> <tr> <td>質 問 (ハイと答えた割合) ※小 6 年生回答対象</td> <td>小 6</td> </tr> <tr> <td>学校の英会話の授業について、家で話したり、習った英語を使ったりしますか。</td> <td>30%</td> </tr> </table> <p>⑤ 中学校(1 年～3 年)における英語検定 3 級以上を保有する生徒の割合は 14.3%で目標値を上回っている。中3の CEFR A1(英検3級程度)以上取得者の数値では、県との差-4.9 ポイントで、昨年-10 ポイント差から縮まっている。</p> <table border="1" data-bbox="470 616 1465 813"> <tr> <td>中 3 の CEFR A1(英検 3 級程度)以上取得者の割合</td> <td colspan="2">差</td> </tr> <tr> <td>嘉手納中学校</td> <td>32.7%</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>沖縄県(令和6年)</td> <td>37.6%</td> </tr> <tr> <td>全国(令和6年)</td> <td>52.4%</td> </tr> </table> <p>⑥ 県到達度調査の中2の英語の平均正答率において、昨年県平均との差が-4.2 ポイントであったが、令和6年度は+6.7ポイントと上昇した。</p> <p>⑦ 【GTEC】調査より 〈小学校6年生〉スコア点数</p> <table border="1" data-bbox="466 1052 1465 1249"> <thead> <tr> <th></th> <th>聞く力</th> <th>読む力</th> <th>話す力</th> <th>書く力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024年度全国参考値(小6)</td> <td>99.6</td> <td>88.3</td> <td>93.5</td> <td>95.8</td> </tr> <tr> <td>2024年度嘉手納町小学校6年生</td> <td>92.8</td> <td>75.4</td> <td>86.4</td> <td>81.7</td> </tr> <tr> <td>全国値参考値と小6結果の差</td> <td>-6.8</td> <td>-12.9</td> <td>-7.1</td> <td>-14.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>4技能のうち、「聞く力」「話す力」のスコアが高く、ALT によるコミュニケーションを重視した授業展開を行ってきた結果が表れている。</p> <p>〈中学校2年生〉スコア点数</p> <table border="1" data-bbox="466 1393 1465 1590"> <thead> <tr> <th></th> <th>聞く力</th> <th>読む力</th> <th>話す力</th> <th>書く力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2024年度全国参考値(中2)</td> <td>99.0</td> <td>86.0</td> <td>95.0</td> <td>139.0</td> </tr> <tr> <td>2024年度嘉手納町(中2)</td> <td>90.3</td> <td>83.5</td> <td>85.2</td> <td>132.2</td> </tr> <tr> <td>全国値参考値と中2結果の差</td> <td>-8.7</td> <td>-2.5</td> <td>-9.8</td> <td>-6.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>4技能のうち、「読む力」「書く力」のスコアが高く、教科書読解や文法等の授業に力点を果たした成果が表れている。</p> <p>現在の英語教育における、4技能に対する強み弱みのエビデンスがはっきり見えたことで、ALT との会議や中学校教科部会での授業改善や目標設定に役立った。</p>	質 問 (ハイと答えた割合) ※小 6 年生回答対象	小 6	学校の英会話の授業について、家で話したり、習った英語を使ったりしますか。	30%	中 3 の CEFR A1(英検 3 級程度)以上取得者の割合	差		嘉手納中学校	32.7%	/	沖縄県(令和6年)	37.6%	全国(令和6年)	52.4%		聞く力	読む力	話す力	書く力	2024年度全国参考値(小6)	99.6	88.3	93.5	95.8	2024年度嘉手納町小学校6年生	92.8	75.4	86.4	81.7	全国値参考値と小6結果の差	-6.8	-12.9	-7.1	-14.1		聞く力	読む力	話す力	書く力	2024年度全国参考値(中2)	99.0	86.0	95.0	139.0	2024年度嘉手納町(中2)	90.3	83.5	85.2	132.2	全国値参考値と中2結果の差	-8.7	-2.5	-9.8	-6.8
質 問 (ハイと答えた割合) ※小 6 年生回答対象	小 6																																																						
学校の英会話の授業について、家で話したり、習った英語を使ったりしますか。	30%																																																						
中 3 の CEFR A1(英検 3 級程度)以上取得者の割合	差																																																						
嘉手納中学校	32.7%	/																																																					
沖縄県(令和6年)	37.6%																																																						
全国(令和6年)	52.4%																																																						
	聞く力	読む力	話す力	書く力																																																			
2024年度全国参考値(小6)	99.6	88.3	93.5	95.8																																																			
2024年度嘉手納町小学校6年生	92.8	75.4	86.4	81.7																																																			
全国値参考値と小6結果の差	-6.8	-12.9	-7.1	-14.1																																																			
	聞く力	読む力	話す力	書く力																																																			
2024年度全国参考値(中2)	99.0	86.0	95.0	139.0																																																			
2024年度嘉手納町(中2)	90.3	83.5	85.2	132.2																																																			
全国値参考値と中2結果の差	-8.7	-2.5	-9.8	-6.8																																																			
<p>課題</p>	<p>①成果⑦より、小学校では「書く力」「読む力」、中学校では「話す力」「聞く力」への課題がみえた。</p> <p>②中学2年生の GTEC において、3技能のうち「話す力」「聞く力」への課題がみえた。</p> <p>③成果④より、授業以外で英語を活用する場面が少ない傾向にある。</p>																																																						
<p>対策</p>	<p>①小学校では ALT によるコミュニケーションを重視した授業を継続しつつ、書く作</p>																																																						

	<p>業(スペリング)や教科書を読む等の指導を工夫し、CAN DO LIST を活用した授業づくりをすすめる。</p> <p>②中学校では ALT と連携して、コミュニケーションと対話を中心とした授業づくりをすすめ、アウトプットの場面を多く作る工夫と改善を図る。</p> <p>③「実践的な英語」が使えるように、小学校の ALT と英語コーディネーターとの連携を図り、授業づくり、改善を進める。</p> <p>④中学校で学ぶ「実用的な英語」につなげるためにも、授業の中だけでなく、休み時間、清掃時間等、様々な場所でその機会を多くつくり出す工夫や授業改善に今後とも取り組んでいきたい。</p>
点検評価員 のご意見	<p>○中学校の「聞く力」「話す力」の課題は、小学校でも関連するところがある。小中学校通じて、コミュニケーション活動等を工夫した授業実践に努めてほしい。</p> <p>○小学校での CAN DO LIST を活用した授業づくりで、4 技能が高まることを期待したい。</p> <p>○話す力が身につくよう取り組んでほしい。</p> <p>○英会話同好会など学校の活動で楽しみながら話せるようにできないか。</p> <p>○英会話ができる人材を育成してほしい。</p>

事業名	4 中学生英語検定受検料補助(年1回分)																				
事業費(千円)	448	自己評価	A・ B ・C・D																		
事業の内容	英語力、英会話能力の向上を図るため、中学校の全生徒を対象に、年に1回、英語検定試験受検料を補助する。																				
本事業の目標	<p>①英語特区で培ってきた取組を生かし、中学校での英語教育の充実・強化を図る。</p> <p>②生徒の英語に対する理解の充実と実践的コミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>③保護者の経済的負担の軽減を図る。</p>																				
進捗	<p>英検受検の事前指導として、指導員の発音指導やリスニングの練習等補習指導を継続して実施している。令和6年度受検者は167名(受検率40.3%)、合格者は96名(合格率57.5%)となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受検者数(延べ)(受検率)</th> <th>合格者(合格率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年度</td> <td>190名(39.8%)</td> <td>105名(55.2%)</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>270名(57.0%)</td> <td>202名(74.8%)</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>256名(57.5%)</td> <td>117名(45.7%)</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>251名(59.2%)</td> <td>142名(56.6%)</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>167名(40.3%)</td> <td>96名(57.5%)</td> </tr> </tbody> </table>				受検者数(延べ)(受検率)	合格者(合格率)	令和2年度	190名(39.8%)	105名(55.2%)	令和3年度	270名(57.0%)	202名(74.8%)	令和4年度	256名(57.5%)	117名(45.7%)	令和5年度	251名(59.2%)	142名(56.6%)	令和6年度	167名(40.3%)	96名(57.5%)
	受検者数(延べ)(受検率)	合格者(合格率)																			
令和2年度	190名(39.8%)	105名(55.2%)																			
令和3年度	270名(57.0%)	202名(74.8%)																			
令和4年度	256名(57.5%)	117名(45.7%)																			
令和5年度	251名(59.2%)	142名(56.6%)																			
令和6年度	167名(40.3%)	96名(57.5%)																			
成果	<p>①中学校においては、英会話を通して実践的な英語力の向上につなげており、昨年度と比較して受検者は減少したものの合格率は増加していることから、英語教育の着実な根付きが見られる。</p> <p>②教育委員会が英検実施の事務局を担い、教職員の負担軽減に寄与した。</p>																				

課題	・受検率の向上
対策	①生徒、保護者へ英検の実施時期や受検できる級、補助事業を広く周知し、受検に向けた啓蒙を継続する。 ②各学年の目標級を設定し、授業や英検対策講座において生徒自身の英語力の定着・向上を実感させることで、受検への意欲を高める。
点検評価員のご意見	○英検の受検率及び合格率が向上するよう具体的な取組を期待したい。 ○教育委員会が事務局となり、教職員の負担軽減に寄与したことは評価できる。 ○英検の受検者数減少、受検率の低下はおかしい。改善を求める。 ○昨年度も意見したが、中学校だけでなく、小学校や町立学校に通わない町内小中学生にも補助を行う検討をしてほしい。 ○対策の②は昨年度も対策として記載があったが実施しなかったのか。

事業名	5 特別支援教育支援員(教育サポーター)の配置																	
事業費(千円)	55,644	自己評価	A (B)・C・D															
事業の内容	町内の各小中学校に特別支援教育支援員(以下、教育サポーターとする。)を配置し、障がい等による特別な支援を要する児童生徒に支援を行う。																	
本事業の目標	教育サポーターを町立小中学校へ配置し、対象となる児童生徒の食事、排泄、教室移動補助等学校における日常生活動作の介助、学習活動上のサポート、障がいに応じた支援を行う。 また、対象児童生徒の保護者へのアンケートを実施し、教育サポーターの対応への満足度 80%以上を目標とする。																	
進捗	① 教育サポーター配置状況(R7.3.1 時点) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象児童生徒数</th> <th>配置人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋良小学校</td> <td>33 名</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>嘉手納小学校</td> <td>32 名</td> <td>7 名</td> </tr> <tr> <td>嘉手納中学校</td> <td>29 名</td> <td>4 名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>94 名</td> <td>18名</td> </tr> </tbody> </table> ② 教育サポーターの資質向上のため、研修を6回実施 4月…全サポーター対象講話「学校における具体的な支援」 4月～9月…スキルアップペアトレーニング(5回)			学校名	対象児童生徒数	配置人数	屋良小学校	33 名	7 名	嘉手納小学校	32 名	7 名	嘉手納中学校	29 名	4 名	合計	94 名	18名
学校名	対象児童生徒数	配置人数																
屋良小学校	33 名	7 名																
嘉手納小学校	32 名	7 名																
嘉手納中学校	29 名	4 名																
合計	94 名	18名																
成果	①サポート対象となる児童生徒の保護者に対するアンケートでは、学校生活や学習上の困り感が改善されたとの肯定的な回答が 82.5% (小学校で 86.7%、中学校で 78.2%)であった。																	

	<p>②アンケートにて「今までは出来ない事があると落ち込んだり取り組みを避けることがありましたが、サポーターの先生の支援のお陰で出来ないことや苦手な取り組みにもサポートしてもらいながら挑戦し、取り組みへの意欲や成功体験を得ることが出来ている。」「楽しく学校に行けています。」「問題の解き方が分からず困った場面ですぐサポーターの先生に聞くことができ、本人が安心して授業に取り組むことができている。」などの意見があり、教育サポーターの配置により児童生徒の困り感が改善したことがみられる。</p> <p>③教育サポーターの資質向上のため、4月～9月に合計6回の研修を実施し、対象児童生徒への接し方、声かけの方法等をトレーニングしたことで、適切な支援へつなげることができた。</p> <p>また、研修の際に教育サポーター間での情報共有をすることで、途中で新しく任用されたサポーターへの支援やサポーター同士の連携を図ることができた。</p> <p>④アンケートの実施方法を改善し、アンケート回収率が83.6%と向上した。</p> <p>⑤4月のサポーター研修会において、教育サポーターの業務内容をしっかり伝え確認したことで、サポーター一人一人の業務内容の把握が図れた。</p>
課題	<p>①「学校と保護者、サポーターの方との共有の場が欲しい」「日頃の様子やお互いの対応、困っていること等も含めた共有の場があれば、良い支援方法が考えられるのではないか。」等小学校、中学校共に、2件ずつ情報共有の要望があった。</p> <p>②対象児童生徒の不登校により、支援できていない状況が発生している。</p>
対策	<p>①学校と相談し、三者面談などの時にサポーターの方との情報共有の場を設ける機会を検討する。</p> <p>②スクールソーシャルワーカーや特別支援コーディネーター、学級担任、教育サポーター、関係機関等と連携し、適切な支援につなげる。</p>
点検評価員のご意見	<p>○学校と保護者、サポーターの情報共有の場を具体的に設定してほしい。</p> <p>○対象児童生徒の不登校という課題はこの事業の課題ではないのではないかと。また、この課題はその対策とあわせて記載内容が昨年度と同じ記載となっており、対策の再検討を要する。</p> <p>○中学校が対象生徒29名に対し、教育サポーター配置が4名となっている。対応に課題はないか。適切に対応できているのか確認したい。</p>

事業名	6 生徒指導強化事業		
事業費(千円)	10,726	自己評価	A (B)・C・D
事業の内容	<p>①不登校児童生徒の登校支援に向けた関わりや家庭支援を行うためにスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)を1人配置する。</p> <p>②登校渋りや登校復帰、教室に入ることができない生徒の居場所づくりに対応する支援員(生徒指導支援員)を小中学校に1人ずつ配置する。</p>		

本事業の目標	特別な支援を要する不登校等の児童生徒に対応した支援(登校支援、居場所作り等)をおこなう。また、児童生徒や保護者が抱える困り感について多様な支援方法を探り、関係機関へつなぐ等、連携し解決を図ることで、児童生徒や保護者の支援をおこなう。
進捗	①令和6年度の不登校児童生徒数は、小学校51人(前年度より33人増)、中学校23人(前年度より1人減)であった。 ②不登校出現率は小学校5.3%で、全国2.14%より高い。(全国データはR5、2025.10時点の最新データ) ③不登校出現率は中学校5.5%で、全国6.71%より低い。(全国データはR5、2025.10時点の最新データ) 不登校出現率=(不登校児童生徒数÷全児童生徒数)×100 ③中学校において校内自立支援教室を設置した。
成果	①SSWが校内のケース会議に参加し、支援の必要な児童生徒を把握することにより、学校と家庭・関係機関をつなぐことがスムーズになり、支援を要する児童生徒の適切な支援につながっている。 ②学校では生徒指導支援員を活用し、学級担任や生徒指導主任と連携しながら、登校支援や学習の見守りをおこなうことで、教室に入れない児童生徒の居場所づくりや学びの保障につながった。 ③校内自立支援教室が、ふれあいスクールから学校への繋ぎの一步となった。また不登校傾向の生徒が週に1回から校内自立支援教室へ登校する等、教室に入ることができ、生徒の居場所となった。
課題	①小学校の不登校児童や登校渋りの増加 ②非行系の生徒の対応 ③家庭環境が主な要因となっている不登校児童生徒への支援 ④新規の不登校児童生徒の把握が不十分のため、情報共有の場の再構築
対策	①1人1台タブレット端末の活用による学びの保障 ②SSWを中心に、青少年センターや子ども家庭課、福祉課などの関係機関との連携による切れ目ない支援をおこなう。(まなびつながり部会)
点検評価員のご意見	○「1人1台タブレット端末の活用」を具体的に推進し、学力保障に努めてほしい。 ○小学校を中心に関係機関との連携を進め、不登校児童生徒が減少するようにしてほしい。 ○不登校児童生徒数は倍になっているがなにか理由があるのか確認したい。

事業名	7 人間形成の基礎を培う幼児教育の充実		
事業費(千円)	138,199	自己評価	A・(B)・C・D
事業の内容	①幼児教育における子育て支援 ②小学校への円滑な接続 ③特別な支援を必要とする園児への支援		

本事業の目標	①家庭と園の連携を深める ②保幼小が情報等を共有し、幼児の発達を小学校へつなぐ ③障害や発達の特性を理解し、一人一人に応じた発達の支援
進捗	①保育支援システムを導入し、保育活動の「見える化」を図る。 ②保幼小連絡協議会(校区内)、合同研修会(町保育施設)への参加 ③特別支援員の配置と関係機関との連携
成果	屋良幼稚園 在籍園児数 53 人の内 40 人が預かり保育を利用:75% 嘉手納幼稚園 在籍園児数 92 人の内 68 人が預かり保育を利用:74% ①保育支援システム(コドモン)を導入し、園生活の様子やお知らせ等を配信することで保護者から成長の様子が伝わるとの声があった。 ②町内の保幼小の職員が顔を合わせ情報共有する場があった。また、小学校とは随時、互いに子どもたちの様子等を伝え合う機会を持つことができた。 ③関係機関との連携や個別の支援計画、指導計画の作成をし、小学校へと引き継ぐことで、切れ目のない支援へとつながるようにしている。
課題	①保育支援システムの更なる活用。 ②架け橋期カリキュラムの検討と開発を進める必要がある。 ③特別支援員の資質向上のための定期的な研修の実施。 ④屋良幼稚園 預かり保育指導員1名、特別支援員1名、嘉手納幼稚園 預かり保育指導員2名、特別支援員1名任用できなかったため、職員で対応した。
対策	①保育支援システムについての保護者アンケート等を取り、保護者のニーズを把握し、活用促進を図る。 ②保幼小の職員が相互理解を深める場の設定。 ③特別支援教育に関する研修の計画をたてる。
点検評価員のご意見	○保育支援システムについては、保護者との連携が充実するよう今後も取組を工夫してほしい。 ○保幼小の連携を今後も推進してほしい。 ○研修や相互理解を深める場の設置について、しっかり取り組んでほしい。 ○職員配置について適正に配置してほしい。

事業名	8 要保護及び準要保護児童生徒就学援助事業		
事業費(千円)	15,356	自己評価	A・ Ⓐ ・C・D
事業の内容	<p>経済的な理由により、毎日の学習に必要な学用品などの購入や学校行事等への参加に必要な費用の支出が困難な保護者に対し、その費用の一部を援助し、すべての児童生徒が等しく義務教育を受けることができるようにする。</p> <p>援助の費目には、新入学用品費、学用品費、通学用品費、修学旅行費(小6・中2)、医療費、PTA 会費、クラブ費、生徒会費(中学生のみ)、校外活動費、オンライン学習通信費(世帯毎)がある。</p> <p>保護者より申請受付後、審査を行い、要保護(生活保護の教育扶助受給世帯)と準要保護(児童扶養手当受給世帯、市町村税所得割非課税世帯、前年度または今年度生活保護の停止または廃止の措置を受けた世帯)を認定し、児童生徒の就学への経済的負担を軽減する援助を行うものである。</p>		

本事業の目標	必要な援助を行うことにより、義務教育の円滑な実施に資することを目標とする。					
進捗	前年度認定者への申請書提出促進を行うが全件提出とはならない。 前年度認定者のうち12名が未提出となった。					
		屋良小	嘉手納小	嘉手納中	区域外	合計
	要保護	1名	0名	3名	0名	4名
	準要保護	71名	118名	106名	1名	296名
合計	72名	118名	109名	1名	300名	
成果	<p>町独自に給付している教材費と就学援助の学用品費を別途支給できるよう予算措置を行い、学用品費全額を保護者へ支給を継続した。</p> <p>一人一台端末の持ち帰りにより、自宅ネット環境を学習にも使う機会が増えたため、その一部の援助を目的に「オンライン学習通信費」を新しく費目として加え、制度の拡充を行った。</p>					
課題	<p>①申請書にて同意を得てから、課税情報などの確認を行うため、制度を利用できる経済状況にあるが、申請をしていない対象者を把握することが難しい。</p> <p>②町の就学援助額において、国の補助単価(歳入の各費目の補助上限額)と開きのある費目がある。</p>					
対策	<p>①就学援助制度に関する情報の周知・案内の強化を図る。現在実施している広報、ホームページの掲載、集会等での文書配布を継続し、保護者連絡ツール(tetoru)の活用や就学児健診等で広報ブース設置など新たな手法、周知の機会を増やしていく。また、関係部署との連携により、新たな情報発信の手法を増やし、対象となりうる世帯への積極的な情報提供を行う。</p> <p>②他課の事業での援助などの状況も確認し、重複無く費目を整理し、充実を図る。</p>					
点検評価員のご意見	<p>○「オンライン学習通信費」を費目に加えたことは評価できる。</p> <p>○保護者連絡ツール(tetoru)の活用を推進してほしい。</p>					

事業名	9 災害共済給付		
事業費(千円)	636	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	独立行政法人日本スポーツ振興センターと学校の設置者との契約により、学校の管理下における児童生徒等の災害(負傷、疾病、傷害又は死亡)に対して災害共済給付を行う。		
本事業の目標	国・学校の設置者・保護者の三者による互助共済制度で、学校管理下における児童生徒の災害に対して付加支給分及び見舞金等を加え給付を行い、保護者及び学校の設置者の負担を軽減する。		

<p>進捗</p>	<p>【共済掛金の内訳】</p> <p>一般 475 円 = (保護者負担 230 円) + (町負担 230 円 + 15 円(手数料))</p> <p>要保護 35 円 = (保護者負担 10 円) + (町負担 10 円 + 15 円(手数料))</p> <p>幼稚園一般 150 円 = (保護者負担金 90 円) + (町負担 45 円 + 15 円(手数料))</p> <p>令和 6 年度 共済掛金支払い実績 666,340 円</p> <p>屋良小:171,035 円 (一般 475 円×360 名:要保護 35 円×1 名)</p> <p>嘉手納小:281,270 円 (一般 475 円×592 名:要保護 35 円×2 名)</p> <p>嘉手納中:192,585 円 (一般 475 円×405 名:要保護 35 円×6 名)</p> <p>屋良幼: 7,500 円 (一般 150 円×50 名)</p> <p>嘉手納幼: 13,950 円 (一般 150 円×93 名)</p> <p>令和 6 年度 災害共済給付事業 給付実績</p> <table border="1" data-bbox="635 757 1361 1003"> <thead> <tr> <th>学校区分</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>2</td> <td>28,276 円</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>32</td> <td>192,056 円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>17</td> <td>180,615 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>51</td> <td>400,947 円</td> </tr> </tbody> </table> <p>過去3年給付実績比較</p> <table border="1" data-bbox="635 1052 1361 1245"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和3年度</td> <td>54</td> <td>549,820円</td> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>38</td> <td>405,554円</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>41</td> <td>470,841円</td> </tr> </tbody> </table>	学校区分	件数	金額	幼稚園	2	28,276 円	小学校	32	192,056 円	中学校	17	180,615 円	合計	51	400,947 円	年度	件数	金額	令和3年度	54	549,820円	令和4年度	38	405,554円	令和5年度	41	470,841円
学校区分	件数	金額																										
幼稚園	2	28,276 円																										
小学校	32	192,056 円																										
中学校	17	180,615 円																										
合計	51	400,947 円																										
年度	件数	金額																										
令和3年度	54	549,820円																										
令和4年度	38	405,554円																										
令和5年度	41	470,841円																										
<p>成果</p>	<p>①災害給付制度の実績・主な傷病・主な発生時間帯などの結果を校長会で情報提供し、注意喚起を行うこと、及び子ども医療費助成制度との制度の違いを理解した上で、利用してもらうよう周知を継続した。</p> <p>②次年度保護者負担額を徴収せず、町がその分を負担する。</p>																											
<p>課題</p>	<p>①災害共済給付は手続き上、給付に時間を要するため、子ども医療費助成制度を利用されることが稀にあり、学校活動内のケガ等の把握が必要である。</p> <p>②災害共済給付の対象者は、限られた児童生徒であるため、①のことが起こらないよう今後も状況把握と申請手続等の周知が必要である。</p>																											
<p>対策</p>	<p>①チラシやポスターを活用することに加え、学校・園と連携を図り、保護者連絡ツール(tetoru)を活用し保護者への周知を定期的に行う。</p> <p>②災害共済掛金の保護者負担額を町が補助していることや学校活動内のケガ等の場合の申請手続等の周知を図る。</p>																											
<p>点検評価員 のご意見</p>	<p>○災害件数の減少に向けて、校長・教頭会等の各種会議で注意喚起してほしい。</p> <p>○昨年度も課題となっている「学校活動内のケガ等の把握」について、適切に対応する必要がある。対策が効果がなかったのであれば次年度の対策は内容を再検討してほしい。</p> <p>○ケガ等の発生件数が増えているが課題ととらえていない。</p>																											

事業名	10 かでなっ子ハローワーク事業		
事業費(千円)	573	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	「子どもと社会」「子どもと地域」「子どもと未来」を繋ぐ取り組み。子ども達が、地域や社会が行う行事やイベントのお手伝い、ボランティア、職場見学や職場体験が自由に何度でも体験できる取り組み。		
本事業の目標	<p>子ども達が、地域企業の仕事やイベントのお手伝いに関わることで、かでなを知り、子ども達の未来につながる出会い、新しい自分発見の旅に出かけ、「なりたい自分」を探り、「かでな型学力」を育む。さらに、子ども達はその体験、経験を「キャリアパスポート」で振り返り、自分の足跡として残し小学校、中学校と繋ぐことで、自分の履歴を振り返り、見つめ、さらに目標を設定することで、子ども達のエージェンシーの育成と、自己実現を図りキャリア教育の充実を図る。</p> <p>長期休業や土日を活用することで、自分の体験したい仕事や、ボランティアを主体的に選び、参加することができる。また、嘉手納町民一人一人を先生にすることで、沢山のおとなにふれ、嘉手納を知り、嘉手納のために何かやってみたくと、子ども達が嘉手納を愛し、前に踏み出し、考え、生き方を考えるきっかけになる。</p> <p>また、「Dream パスポート」へ体験や経験の足跡をしっかり記録として残すことで、自分の成長、をいつでも振り返り、自分の目標設定を見つめなおす機会にしてきたい。最終的には、中学校の職場体験学習が少しずつ移行し、「総合的な学習の時間」を嘉手納の探究課題を深め子ども達の自発的な「ふるさとキャリア教育」へとつなげたい。</p>		
進捗	<p>①町立小中学校の在籍する小学校5年生～中学校3年生(夏休み)150人の児童生徒が自分のチャレンジしたい事に自主的に参加。</p> <p>②学校の長期休業(夏休み、秋休み)及び土日祝日(野國總管まつりやイベント)で実施。</p> <p>③一人一台端末から Google Classroom にログインし「かでなっ子ハローワーク」のクラスルームから、利用登録を行う。その際に、申し込み順に通しハローワーク番号を付し(中学校3年生まで自分の足跡が見える仕組み)、参加状況の管理を行った。</p> <p>④「かでなっ子ハローワーク」の募集掲示板の中から、希望する企業、事業所を掲示板から探し、応募ページより必要事項を入力し、応募を行った。</p> <p>⑤前年度まで中学校にて実施していた、職場体験の受け入れ企業、事業所のリストをもとに、アポイントメントを取り、訪問にて事業説明を行い、受け入れ依頼を行った。</p>		
成果	<p>①土日祝日および学校の長期休業中(夏休み、秋休み)に、50の事業者が小学5年生から中学3年生までの児童生徒243名を受け入れた。対象児童生徒の33.6%が体験した。</p> <p>②自分の「やってみたい」「何がしたいかわからないから色々体験したい」「嘉手納のために何かしたい」と子ども達が主体的にお仕事やボランティアを行うことで、「仕事を体験してみて、もっといろいろなお仕事をしてみたいと思いました。マクドナルドで仕事をしたことで、将来、仕事をする時に大切なことがわかったり、どんな関係を築</p>		

	<p>けばいいのかわかった気がしました。(小学5年生女子)「地域の方々やお年寄りの方々と交流をしてみたいと思っていました！何か恩返しできること、このボランティアに参加することで、地域の一員として何かできるかもしれないと思い申し込みました。(中学3年生男子)と子ども達の「かでな型学力」(主体性、自己有用感、前に踏み出す力等)非認知能力の高まりがみられた。</p> <p>③児童質問紙調査で中学生の「将来の夢や希望を持っている」の問いが、全国を小学校6年生+13.2ポイント、中学校3年生+7.6ポイント上回った。また、「地域や社会をよくするために何かをしてみたい」でも小中共に全国を上回る結果となった。</p> <p>④1人一台端末を活用して「かでなっ子ハローワーク」のクラスルームから募集掲示板の確認、利用登録等を行いDXで進めることができた。</p> <p>⑤地域、企業から「新しい取り組み、中学生や小学生が地域と繋がるこの事業は、すごく良い企画だと感じています。後継者不足の私たちにとっても、仕事を知ってもらうことで、人財育成に繋がる子どもたちの、将来の進路の選択肢の一つになれば幸いです。」等人財育成、嘉手納の子ども達のためにとの声を多くいただいた。</p>
課題	<p>①申し込みの仕方が難しかった、体験したい職業がなかった等の子どもの声があった。申し込みや周知をスムーズにいくように、端末を活用した方法を再構築する。</p> <p>②小学生の体験者数が少なかった。ハローワーク自体を知らない保護者もいた。</p> <p>②新たに協力していただく事業所を少しずつでも確保する。</p>
対策	<p>児童生徒が体験したい職業について、受入事業所を増やすために、マスコミ等を活用したり、各学校へ掲示板を作成する。取材班の活動を活発にし、かでなっ子ハローワーク事業の事業周知を行う。</p>
点検評価員のご意見	<p>○今後は、多くの子どもが取り組めるように運営のあり方及び学校との連携等、工夫に努めてほしい。</p> <p>○課題①について対策がない。</p>

事業名	11 DX 推進事業		
事業費(千円)	2,327	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	GIGAスクール構想による1人1台端末の整備は完了したが、学校間・教職員間で端末活用において格差が生じている。「嘉手納の探究型授業」の推進にむけ、全教職員間の学習指導のスキルアップを図る。		
本事業の目標	GIGAスクール構想により整備された1人1台端末の活用促進を図り、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業づくりを進める。これまで実践取り組んできた「嘉手納の探究型授業」による主体的・対話的で深い学びの実現のため、全教職員のICTを活用した学習指導のスキルアップや各校の校内研修の充実のため先進校視察や講師招聘を実施し、教職員のICTを活用した授業づくり、授業力向上と児童生徒の「かでな型学力(資質・能力)の向上を図る。		

進捗	<p>実施：嘉手納町小中学校教職員</p> <p>・年5回全教職員研修会と公開授業を組み合わせ実施(7月嘉手納中、11月嘉手納中(生成AI公開)、12月嘉手納小、1月屋良小、2月屋良小、嘉手納小、嘉手納中同日公開授業)</p> <p>・先進視察地：愛知県春日井市、静岡県吉田町・先進地講師招聘：愛知県春日井市</p>
成果	<p>①年間 5 回実施した公開授業には、延べ 1,400 名を超える参加申込があり、本町の教育実践に対する関心の高さが示され、これは、GIGA スクール構想の実現に向けた先進的な実践として、他自治体のモデルとなる教育実践を広く発信する貴重な機会となった。</p> <p>②また、小・中学校の全教職員が参加する研修会を開催したことで、目指す授業の方向性を全校で共有し、校種間の連携による相乗効果を生み出すなど、実践の着実な普及につながった。</p> <p>③先進地地域への視察や先進地講師招聘を行い、各学校での推進する管理職や先生方の理解を深め、実践を促進する原動力となった。</p> <p>④こうした取り組みの結果、文部科学省「校務DXチェックリスト」では県内第1位のスコアを達成し、本町の教育DXが着実に進展している。</p>
課題	<p>①これまでの経験やICT活用スキル、知見の違いから、教員間におけるICTを効果的に活用した授業デザインに差が見られるのが現状である。</p> <p>②特に、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を両立させる「新たな授業観」への転換に向けて、全教員の意識改革と専門性の向上が求められる。</p>
対策	<p>①次年度も、本町が目指す「かでな型学力(資質・能力)」の育成を柱に据え、探究的な学びを各教科等の特質に応じて展開する。</p> <p>②その際、学習のねらいや評価規準を明確にし、児童生徒と教員が学習過程を可視化・共有しながら授業改善を進めることで、共通理解に基づく組織的な授業改善力を高めていく。</p> <p>③町全体で学習の基盤となる情報活用能力の育成を共通確認し、探究的な学びのさらなる充実を図る。</p> <p>④また、全教職員を対象とした研修の更なる充実を図るとともに、教員の多様なニーズに応じた研修機会を提供することで、教員一人ひとりの専門性を高め、町全体の教育力の向上を目指す。</p>
点検評価員 のご意見	<p>○ICT を活用した授業に差ができないように、研修を進め、授業の取組方法について、共通理解を図ってほしい。</p>

青少年センター

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	3 事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果 B:目標達成する成果 C:目標達成に至らず D:未執行
			B	3事業	
			C	事業	
			D	事業	

本課における事業の総括

青少年センターにおける重点事業は、青少年の健全育成をめざして、「相談活動」「健全育成事業」「教育支援教室ふれあい」の充実である。

- ①教育相談業務は、来所相談・電話相談・メール相談に加え、相談員が学校と連携しながら、各校に週1回の定期学校訪問を実施し面談や授業観察・別室登校の学習支援等を通して児童生徒に寄り添う相談活動を行うことができた。相談活動は児童生徒のほか、保護者、教職員も対象となった。また、学校から申請のあった児童生徒に対し、相談活動を継続しつつ教育支援教室「ふれあい」や関係機関と連携しながら困り感を支援することができた。
- ②健全育成事業については、「ふれあいサマースクール」において延べ29名の児童生徒が参加した。夏休み体験活動では、小学生は倉敷ダム見学やクラフト工作を行い(参加7名)、中学生はパン作り教室を行った(参加7名)。登校時・下校時や夜間巡視活動等は303回・延べ606名の参加で、青少年による事件事故の未然防止につながった。青少年センター研修会においては「救急救命講習：心肺蘇生法」の研修を行った。
- ③適応指導教室(現教育支援教室「ふれあい」)には中学生2名、小学生4名が入級した。教育相談支援での通所児童小学生1名を合わせ7名の児童生徒が学んだ。(体験入級のみで学校に復帰した中学生が1名。)学習支援や体験活動等を主に、学校と連携し、生徒の困り感に寄り添った進路指導や学校復帰に向けた支援を行うことができた。

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 教育相談業務		
事業費(千円)	6,413	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<p>(1)相談の形態(対象:小中高校生・既卒青少年、保護者、学校職員、関係者)</p> <p>①来所相談 ②訪問相談(学校・家庭) ③電話、メール等による相談</p> <p>(2)定期学校訪問</p> <p>①目的:小・中学校における不登校やいじめの問題、発達障害を背景とした不適応や問題行動について適切な対応支援を図る。</p> <p>②支援方法:教育相談員が定期的に小・中学校を訪問し教職員と課題のある児童生徒の情報交換及び児童の個別相談・寄り添い教室における学習支援を実施する。</p> <p>(3)教育相談支援事業</p> <p>集団への不適応や対人関係等で問題が生じている児童生徒に対し、センターへの定期的な来所を通して相談支援を行う。</p> <p>(4)学校、関係機関、保護者との連携</p> <p>個別支援会議(ケース会議)、学びつながり部会等への参加・情報交換</p>		
本事業の目標	<p>教育相談業務の目標は、相談業務を通して青少年の自己決定、自己確立に向けた支援を行うことにある。そのため、総合的な相談支援を展開する。また、学校、保護者、関係機関等と連携し、不登校児童生徒への支援、問題行動の未然防止に努める。</p>		

<p>進捗</p>	<p>*今年度の教育相談は、360 件(R5:267 件)の相談件数があり、その相談に費やした回数は1,163 回(R5:1007 回)となっている。センターへの来所相談が491 回(R5:619 回)、訪問相談が352 回(R5:169 回)、電話相談が234 回(R5:189 回)、メール相談が86 回(R5:30 回)だった。</p> <p>*主な増加の原因としては、一人あたりの個別の相談回数が前年度より増えている。(放課後の対応が R5 より増えていた)また、児童生徒と会うための積極的な支援として家庭訪問も前年度より増加した。</p> <p>*相談員の業務の見直しの一つとして、本年度から来所相談や電話相談・メール相談には、相談内容によって専門性、相談対象者との関り等を考慮した全職員(5 名)の教育相談体制を取り入れることにより、より充実した相談支援に繋がった。</p>
<p>成果</p>	<p>1. 教育相談事業</p> <p>不登校をはじめ、学校生活に困難を抱える児童生徒とその保護者に寄り添い、一人ひとりの状況に応じた、きめ細やかな相談・支援活動を展開ができた。</p> <p>(1) 定期学校訪問による課題の早期発見と連携支援</p> <p>定期的に学校を訪問し、課題を抱える児童生徒への早期対応と、学校との連携強化を図った。成果として、①担任や関係教職員との情報共有を起点に、チームとして児童生徒を支援する体制を構築した。</p> <p>②登校しぶりの児童には、本人の気持ちに寄り添いながら相談室等を活用し、安心して学校で過ごせる時間を増やすことができた。</p> <p>③学校と連携した家庭訪問を重ねることで、保護者・生徒との信頼関係を築き、生活リズム等の根本的な課題解決に向けた支援を行うことができた。</p> <p>④長期不登校の生徒に対し、メール等で目標を共有し、週1～2日の来校を達成するなど、学習意欲の向上と自己肯定感の回復に繋がった事例も報告されている。</p> <p>(2) 適応指導教室「ふれあいスクール」における支援の深まり</p> <p>不登校児童生徒の社会的自立と学校復帰を目指し、個々のニーズに応じた支援を強化した。(学校と通信高校とのやり取り)</p> <p>(3) 多様な相談窓口によるアクセシビリティの向上</p> <p>(児童・生徒・保護者が来所しやすい)</p> <p>センターの認知度向上に努め、誰でも気軽に相談できる体制を整備した。</p> <p>①青少年センターが「相談しやすい場所」として認知され、電話・メール・来所による保護者や児童生徒本人からの相談・問い合わせが増加した。</p> <p>②個別の相談に対し、センターでの直接支援や学校へ繋ぐなど、それぞれの困り感に合わせた最適な対応を行うことができた。</p> <p>③保護者と密に連携し、自宅から出られない児童の外出のきっかけを作ったり、原籍校と協力して制作物等の学習成果を評価に繋がれたり、一人ひとりの状況に合わせた柔軟な支援を実践した。</p>
<p>課題</p>	<p>①学習に困り感のある児童への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に向かう際、学校生活に不安感を抱いている児童がいる。 ・学習に困り感のある児童対応が多く、定期訪問の相談時間において学習に困り感のある児童への個別学習対応が多かった。 ・保護者や児童の困り感として、ゲームや SNS などに向かう時間が長くなり、学校

	<p>生活や学習へ切り替えることへの難しさや、授業の内容や早さについていけないなどの不安がある。</p> <p>②児童理解について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度からの申し送りなどで、学習の困り感なのか、友人関係なのか早めの児童理解で対応する必要がある。 <p>③校内外の支援体制の構築の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談ではなく「教室に入れない」、「授業に行きづらい」という悩みの数名の児童対応が同時に重なることが多く、授業が始まってしまうと、児童がやるべき学習課題などを把握できないままで過ごすことがあった。 ・午前中の訪問では担任とのコミュニケーションや情報共有する機会がとりづらいため情報共有の時間の確保を検討したい。 <p>④相談時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業時間確保のため、対面相談を訪問時間内で行うことが難しく、定期訪問では家庭訪問・登校支援が主だった。 <p>⑤支援ニーズの多様化: 少人数の集団にも入れない等、より手厚い個別対応が必要なケースが増加。</p> <p>⑥連携の課題: 保護者の学校復帰への意識低下や、原籍校との学習評価の連携が不十分な場合がある。</p> <p>⑦運営体制の課題: 健全育成事業との兼務により、一人ひとりに向き合う時間の確保が困難。</p>
<p>対策</p>	<p>①早めの取り組み(悩みを早期発見し、時間確保して学習を補っていくなど)で、不安感を解消し安心して学校生活や学級で学習できるようにしたい。</p> <p>②自分で悩みや不安、困っていることに気づけていないことがある。自分で気づくと、解消していくきっかけになるので、相談活動などの関わりの中から相互理解し、担任や学校に情報共有する機会をもつようにする。</p> <p>③教室外で過ごす児童への課題等、細やかな連携(学校と相談員の情報共有を密にする)が必要。学校の自立支援教室等との連携を図りながら、児童生徒の困り感に対応しながら支援体制の構築を図る。</p> <p>④学校訪問時の支援内容については学校との調整・共有化を図る</p> <p>⑤個別支援の徹底: 専門研修で職員の資質向上を図り、一人ひとりの特性に応じた支援計画を作成・実践する。</p> <p>⑥生活習慣の再構築支援: 生活リズムの乱れには家庭と緊密に連携し、スモールステップでの目標設定により、本人の成功体験を積み重ねながら改善を図る。</p> <p>⑦「学校復帰」という目標の共有: 保護者・原籍校と定期的(約2ヶ月に1回程度:状況に応じて回数を増やす)に面談し、子どもの成長を確認しながら、共通のゴールに向けた支援体制を再構築する。原籍校職員の来所も積極的に促し、生徒の頑張りを直接評価・激励してもらう機会を増やす。</p> <p>⑧学習環境の連携強化: ICT環境の整備も含め、教室での学びが原籍校での正当な評価に繋がるよう、具体的な連携方法を協議・改善する。</p>
<p>点検評価員 のご意見</p>	<p>○細やかな連携や定期的面談を進め、子ども・保護者・学校の不安感や困り感の解消に努めてほしい。</p>

	○件数の増加について、対応できる体制を構築してほしい。 ○課題が毎年度増える傾向にある、対策に効果がない場合は内容を再検討いただきたい
--	--

事業名	2 健全育成業務																																			
事業費(千円)	1,603	自己評価	A・ ⓑ ・C・D																																	
事業の内容	(1)健全育成活動 ①夜間巡視活動 ②町エイサーまつり・野國總官まつり巡視の帰宅こえかけ ③夏休み夜間巡視活動 ④「少年を守る日」夜間街頭指導 ⑤公園パトロール ⑥地域巡視活動(登校下校時) ⑦ハロウィン・クリスマス挨拶活動 ⑧嘉手納中学校卒業式巡視活動 ⑨青少年センター定例会 ⑩嘉手納町生徒指導連絡会 ⑪社会環境実態調査の実施 (2)健全育成事業 ①ふれあいサマースクールの開催 ②夏休みの小・中学生体験活動事業の実施 ③青少年センター研修会																																			
事業の目標	青少年の深夜徘徊、事件事故・問題行動等の未然防止を目的に学校・地域関係機関と連携し、情報交換・巡視活動を実施する。 ①児童生徒個々の支援充実を図るために青少年指導員と連携した事業を実施する。 ②地域と協働による青少年健全育成の醸成、地域環境浄化の意識高揚を図る。																																			
進捗・成果	青少年の非行等を未然に防止し、地域全体で健全な育成環境を醸成するため、以下の通り計画的な事業を推進し、具体的な成果を上げることができた。 1. 多様な巡視活動による重層的な見守り体制の確立 青少年の事件・事故、問題行動等を未然に防ぐため、年間 303 回、延べ 615 人が参加する多様な巡視活動を定例的に実施した。 <table border="1" data-bbox="443 1339 1465 1944"> <thead> <tr> <th>巡視活動</th> <th>回数</th> <th>参加延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 朝の通学路巡視(指導員)</td> <td>137</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>② 夜間巡視</td> <td>55</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>少年を守る日・夏休み夜間巡視</td> <td>13</td> <td>129</td> </tr> <tr> <td>③ 地域巡視</td> <td>94</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>④公園パトロール</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>⑤ 総管まつり夜間巡視・帰宅こえかけ</td> <td>2</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>⑥町エイサー祭り夜間巡視・帰宅こえかけ</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>⑦ 中学校卒業式当日巡視活動</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>⑧ ハロウィン・クリスマス挨拶運動</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>303</td> <td>615</td> </tr> </tbody> </table>			巡視活動	回数	参加延人数	① 朝の通学路巡視(指導員)	137	160	② 夜間巡視	55	89	少年を守る日・夏休み夜間巡視	13	129	③ 地域巡視	94	155	④公園パトロール	2	4	⑤ 総管まつり夜間巡視・帰宅こえかけ	2	62	⑥町エイサー祭り夜間巡視・帰宅こえかけ	1	3	⑦ 中学校卒業式当日巡視活動	1	8	⑧ ハロウィン・クリスマス挨拶運動	1	12	計	303	615
巡視活動	回数	参加延人数																																		
① 朝の通学路巡視(指導員)	137	160																																		
② 夜間巡視	55	89																																		
少年を守る日・夏休み夜間巡視	13	129																																		
③ 地域巡視	94	155																																		
④公園パトロール	2	4																																		
⑤ 総管まつり夜間巡視・帰宅こえかけ	2	62																																		
⑥町エイサー祭り夜間巡視・帰宅こえかけ	1	3																																		
⑦ 中学校卒業式当日巡視活動	1	8																																		
⑧ ハロウィン・クリスマス挨拶運動	1	12																																		
計	303	615																																		
進捗・成果	①朝の通学路から夜間、地域のイベント(総管まつり等)まで、状況に応じたきめ細やかな巡視・声かけ活動を継続的に行うことで、地域における見守り体制を確立した。																																			

	<p>②活動後の報告会や関係機関との定例会を通じて情報を密に共有し、地域全体で課題に対応する基盤を強化した。</p> <p>2. 地域・関係機関との協働による健全育成ネットワークの強化 学校・地域・警察等、23 団体 37 名で構成される「町生徒指導連絡会」を中核とし、多機関連携による協働体制を強化した。</p> <p>①年 5 回の連絡会(延べ 117 人参加)で情報交換を活性化させ、地域全体の青少年健全育成に対する共通認識を醸成した。</p> <p>②夏休みやイベント時の合同夜間巡視には、連絡会の会員から延べ 56 名の参加を得るなど、具体的な協働活動に繋げることができた。</p> <p>③県の社会環境実態調査に協力し、その結果を関係機関で共有することで、地域環境浄化への意識高揚を図った。</p> <p>3. 青少年の社会性や自己肯定感を育む事業の展開 青少年が主体的に参加できる事業を企画・実施し、異学年交流や地域とのふれあいを促進した。</p> <p>①「サマースクール」には 5 日間で延べ 14 人の小中高生等が参加し、互いに学び合い、教えあう異学年交流の貴重な機会だった。</p> <p>②季節のイベントに合わせた挨拶運動など、子どもたちが楽しく安心して過ごせる環境づくりに貢献した。</p> <p>4. 持続可能な事業運営基盤の整備 職員・指導員の資質向上と業務効率化を図り、安定的・継続的な事業運営を実現した。</p> <p>【成果】</p> <p>①救命救急講習等の研修会を実施し、指導員・職員の資質向上と緊急時対応能力の強化を図った。</p> <p>②一部事業の運営方法を見直し、実行委員会形式へ移行したことで事務局業務が効率化され、本来注力すべき健全育成活動への時間確保に繋がった。</p>
課題	<p>健全育成活動を展開していくためには、青少年指導員の力は大きい。</p> <p>令和6年度、1名の新規加入で20名での活動となった。</p> <p>仕事を終えてからの活動が主であり夜間巡視活動の参加者数に課題あり。毎月第三金曜日に行われる「少年を守る日」夜間街頭巡視について、年間計画で提示し、毎月のセンター定例会で呼びかけ、前日または前々日にメールにて連絡をしているが、参加率が低い状況にあった。より多くの方に参加いただけるよう工夫が必要である。</p>
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年センター業務の精査・整理 ・夜間巡視等の人数確保
点検評価員のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ○夜間巡視は、昨年度より回数が増えており評価できる。 ○青少年指導員が少しでも増えるような取組に期待したい。 ○前年度と比較し課題は変わっているが、その対策の記載が同じである。参加率の解消を図る対策の記載にはなっていない。

事業名	3 適応指導教室業務		
事業費(千円)	6,828	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<p>教育支援教室指導員 2 名</p> <p>(1)不登校児童生徒への支援内容 ①体験活動 ②学習活動 ③学校への登校支援 ④教育相談業務との連携</p> <p>(2)学校・保護者・関係機関との連携 ①学校、担任への通級状況報告、情報交換、ケース会議への参加 ②保護者面談及び情報交換</p> <p>(3)沖支援連との連携 交流事業への参加(スポーツ交流会、体験活動交流会、活動展示報告会)</p>		
本事業の目標	<p>①心理的要因により学校へ不適応を起こしている児童生徒に対し、個々の児童生徒の実態や状況に応じた多様な支援を行い、学校(集団)復帰に向けた適応力の育成・支援を行う。</p> <p>②学校・保護者・関係機関と連携を密にし、子ども一人ひとりが心身共に安らげる居場所を提供し、心的エネルギーの充足を図り、学校復帰に向けた支援の場とする。</p>		
進捗・成果	<p>1. 学校復帰と進路の実現 個々の状況に応じた支援により、具体的な成果に繋がった。 ①学校復帰：適応指導教室等の在籍者 7 名のうち、原籍校と連携した結果、計 3 名が学校に復帰した。 ②進路決定：中学 3 年生 2 名が、職員のサポートのもとで自ら進路を決定し、通信制高校に合格した。 ③目標達成：「週 1 回のチャレンジ登校」や「学校行事への参加」など、一人ひとりが設定した目標を達成することができた。</p> <p>2. 学習意欲と学力の向上 学習面でのつまずきが不登校の原因となっているケースに対し、効果的な支援ができた。 ①学習習慣の定着：日々の学習を継続することで、課題に粘り強く丁寧に取り組む姿勢が身についた。 ②基礎学力の定着と向上：個々の学力に合わせた指導から始め、徐々に当該学年の学習内容に進めるようになった。 ③多様な学習機会の提供：タブレット学習の活用や、原籍校での单元テスト受験など、多様な学びの機会を提供できた。</p> <p>3. 社会性と自己肯定感の向上 体験活動や他者との交流を通して、内面的な成長を促した。 ①協調性と責任感の醸成：調理実習やグループでの創作活動において、役割分担と協力を通じて責任感や協調性が育まれた。 ②調理実習や野菜栽培で「食」への興味が広がり、偏食の改善が見られた。 ③スポーツ活動や創作活動、他機関との交流事業(スポーツ交流会、活動展示報告会など)への参加・発表を通して、達成感や自信を得ることができた。 ④コミュニケーション能力の向上：活動を通して仲間と助け合う姿や、低学年の児童を自ら気遣うといった社会性の成長が見られた。</p> <p>4. 関係機関との連携による成果 原籍校や専門機関との効果的な連携が、生徒の前向きな変化を後押しした。 ①担任からの積極的な声かけが、生徒の「登校してみよう」という意欲を引き出した。 ②学校行事への柔軟な受け入れにより、生徒の「参加したい」という積極性を高め、登校機会の増加に繋がった。</p>		

進捗・成果	<p>③情報交換を密に行い、個々の状況に応じたスムーズな学校復帰計画を推進できた。</p> <p>④定期的なカウンセリング(スクールカウンセラー)と助言(コンサルテーション)により、生徒理解を深め、一人ひとりの特性に応じた具体的な支援を実践できた。</p>
課題	<p>1. 支援ニーズの多様化と個別対応の必要性 不登校が長期化する中で、集団生活への不安感が強く、少人数の適応指導教室にも馴染めない児童生徒が増加している。これまでの集団支援に加え、一人ひとりの特性や心理状況に合わせた、より丁寧な個別支援体制の構築が急務となっている。</p> <p>2. 「学校復帰」に向けた原籍校・保護者との連携 適応指導教室が安心できる居場所となる一方で、一部で保護者の学校復帰への意識が低下するケースが見られる。また、児童生徒の学習状況や努力を原籍校での評価に繋げるための連携や、教職員に教室での様子を理解してもらう機会が不足しており、復帰への円滑な橋渡しが課題である。</p> <p>3. 支援の質を維持するための運営体制 当教室は、町の生徒指導連絡会の事務局や夜間パトロールといった健全育成業務を兼務しています。そのため、職員が一人ひとりの児童生徒と向き合う時間や、教材研究、研修に参加する時間が十分に確保しづらく、支援の質を維持・向上させる上での時間的制約が課題となっている。</p>
対策	<p>1. 一人ひとりの状況に応じた支援体制の強化 個々のニーズに合わせた支援を徹底し、社会的自立の基礎を育む。 ①専門性の向上：関係機関と連携した研修会を実施し、発達等の特性に関する専門的知見を深め、支援方法を常に改善する。 ②個別支援の継続と発展：教室に入れない児童生徒には、相談室等を活用した個別対応を継続します。今後は、個々の状況に応じた支援計画をより具体的に作成し、着実なステップアップを目指す。 ③生活習慣の再構築支援：生活リズムの乱れが見られる場合、家庭と緊密に連携し、通級時間や日数をスモールステップで調整することで、自己肯定感を育みながら生活習慣の確立を支援する。</p> <p>2. 「学校復帰」という共通目標に向けた連携の推進 保護者・原籍校と一体となり、児童生徒の復帰を後押しする。 ①保護者との目標共有：定期的な面談を通じて、児童生徒の成長を具体的に伝え、「学校復帰」という共通目標を丁寧に再確認し、同じ方向を向いて支援を行う。 ②原籍校の教職員に積極的に来所を呼びかけ、教室での学習の様子を共有します。児童生徒の努力や頑張りを直接見てもらい、評価や励ましに繋げる。 ③ICTも活用しながら学習課題の連携方法を工夫し、教室での学びが原籍校の評価に適切に反映されるよう、具体的な協議を進める。</p> <p>3. 持続可能な運営体制の構築 職員が専門性を発揮し、本来の支援業務に注力できる環境を整備する。 ・業務内容の精査と効率化：兼務している健全育成業務との役割分担や実施方法を見直し、職員の負担を軽減することで、児童生徒へのきめ細やかな支援時間を確保する。</p>

点検評価員 のご意見	○「学校復帰」といった目標に向けて、どのような取組ができるか、個に応じた連携及び支援について具体的に計画・実践して欲しい。 ○課題が毎年度増える傾向にある、対策に効果がない場合は内容を再検討いただきたい
---------------	--

社会教育課

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	7 事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果 Ⓑ:目標達成する成果 C:目標達成に至らず D:未執行
			B	7 事業	
			C	事業	
			D	事業	

本課における事業の総括

- 1 人材育成の推進
 - ① 持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成
 - ② グローバル社会における人材の育成
 - ③ 多様な文化への学びや交流の推進
- 2 社会教育事業
 - ① 社会教育団体の指導者養成・支援
 - ② 各種関係機関(学校、家庭、地域)との連携
 - ③ 需要に応じた多様な学習の機会の提供
 - ④ 生涯学習イベントの充実
- 3 文化振興事業
 - ① 文化事業の促進
 - ② 伝統芸能・伝統文化の継承
 - ③ 文化活動の振興
- 4 かでな文化センターの有効活用
 - ① 町民の芸術文化・教育活動等の拠点としての充実・活用
 - ② 施設の老朽化に伴うリニューアル
- 5 社会体育の振興
 - ① スポーツ指導者等対象講習会、各種スポーツ教室、大会等事業の実施
 - ② 各種スポーツ県外派遣費の助成
 - ③ 学校体育施設の開放
- 6 スポーツ団体の育成、環境の整備・充実
 - ① スポーツ少年団の育成
 - ② 社会体育団体の育成
 - ③ スポーツ環境の整備・充実
- 7 中学校部活動の地域展開
中学校部活動の地域展開

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 人材育成の推進		
事業費(千円)	26,962	自己評価	A・Ⓑ・C・D
事業の内容	① プログラミング力育成事業 ② ハワイ短期留学派遣事業 ③ 鳥取県大山町児童交流事業		
本事業の目標	① プログラミングの体験をとおして、プログラミング的思考(論理的思考力)を養うことで、課題解決能力やコミュニケーション力を培い、町の子どもたちの生きる力を育む。 ② 中高校生を米国ハワイ州に派遣することにより、風土及び文化、歴史を学び青少年の親善交流を通して相互理解を深め、国際性豊かな人材の育成並びに国際社会に適用する能力の資質及び国際性豊かな人材育成並びに将来国際社会に適應する能力と資質向上を図ることを目的とする。		

	<p>③ 児童が鳥取県大山町の児童と互いの家庭へ民泊することで異なる風土・生活習慣を学び、交流を通して相互理解を深めることにより、郷土に対する関心を高め、嘉手納町の次代を担う人材育成を図る。</p>
<p>進捗</p>	<p>① 前年度に引き続き、町立小学校2校〔各校 40 名定員、週2回、小学 3～6 年生対象〕のPC教室を利活用し、スクラッチ、教育版マイクラフト、小型ロボットなどを使ったカリキュラムにて、IT業者へ委託にて実施。 R6 年度から中学生を対象とした講座を新規実施〔中学生 30 名定員、週 1 回、かでな未来館〕し、スクラッチ、ユニティ(アプリ)を使用し、プログラミングによるゲームアプリ作成。 小中学生ともに R6 年度実施「はいさい！いちやりば祭」において、プログラミング体験ブースの運営を行い、来場者へ自分たちの作品の披露・説明及びプログラミング体験をさせることで、来場者からの感想等からフィードバックし、以降自分たちの作品の改善へつなげるなどの体験と学びも取り入れた。 参加児童数：屋良小39名、嘉手納小40名、中学生18名</p> <p>② ハワイ短期留学派遣事業は、10 名の中高校生をアメリカハワイ州へ派遣した。 【中学生6名、高校生4名、引率者2名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハワイ短期留学派遣事業は、平成 25 年度より行っており、9回目の派遣となる。16 日間のホームステイで午前中にアクティビティを体験し、午後は語学学校アメリカンビレッジでの語学学習を及びハワイ北谷・嘉手納町人会とのピクニックなどの交流を行っている。 現地でホームステイを体験し、アメリカでの生活や食事、習慣などの違いに触れ、語学学校で英語学習することにより、世界各国から参加した様々な国や地域の留学生と交流ができ、国際性、協調性及び積極性を育むことができた。また、個々の語学力に合ったクラスで語学研修が行われ、研修内容をより充実させることができた。 <p>③ 夏：受入【大山町児童 14 名】、冬：派遣【嘉手納町児童 15 名、引率者 4 名】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大山町児童交流事業は、昭和62年の海邦国体を契機に、昭和 63 年度より児童交流を重ねて、コロナ禍を経て令和6年度で 36年目を迎えた。夏の大山町受入の際には、平和学習や県内の観光施設見学、ビーチで水泳体験やマリンスポーツ、スイカ割やクイズ、ゲームなどのレクリエーションを実施して交流を行っている。冬の大山町への派遣の際には、大山町に民泊し、雪国での生活やスキー、雪遊び体験や国の重要文化財(門脇家)の見学、弥生時代の銅鏡やくびかざりなどのものづくり体験等を行っている。
<p>成果</p>	<p>① 成果目標をアンケート調査による満足度 80%以上としており、参加小中学生ともに「楽しい」(100%)、「満足+やや満足」小学生(83.7%)中学生(100%)、「プログラミングを今後も続けたいか」小学生(91.8%)、中学生(88.9%)との回答により目標に達した。 ・ 「はいさい！いちやりば祭」において、参加児童・生徒は、初めて自らの作品(小学生：マイクラで作成した建造物、中学生：ゲーム)を来場者へ説明とそれらの体験をしてもらい、直接感想や意見をいただいたことが大きな学びとなった。 その後は、それらの感想等を参考に作品の改善をしたうえで、チームで考察したことを発表するなど、年間活動の終盤は自信に満ち溢れ、一回り成長した姿を見せていた。</p> <p>② ハワイ短期留学派遣事業は、ホームステイを通して、アメリカの文化や生活様式を肌で感じる事ができた。また、様々なアクティビティを体験し、語学学校での語学学習及び沖縄移民者で構成する「ハワイ北谷・嘉手納町人会」とのピクニックなど</p>

	<p>の交流を行うことにより、グローバルな視野を広げ社会性を育むことができた。</p> <p>③大山町児童交流事業は民泊を行うことにより、異なる生活環境や文化・歴史を学び、雪国での生活を体験することができた。また、ウインタースポーツであるスキーやゲレンデでのレクリエーションを実施することにより大山町児童との交流を図ることができた。</p>
課題	<p>① 小学校 2 校のうち 1 校が待機児童が多く 3 年生が全員待機のまま終えたため、対象学年の検討を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生は、塾や部活動へ移行する生徒が多く、小学生の時に参加していた児童も継続して参加することがほとんどなく、定員に達することができなかった。また、生徒は受講希望しても保護者の理解を得られず申込に至らない状況が見られる。 ・ 小学校 2 校のPC教室のPCの耐用年数を経過し、保守も終了し、買替も無いとのことで、不具合が出るとその台数が使用できなくなる。 <p>② ハワイ短期留学事業については、令和5年度は、円安、物価高のため生徒7名の派遣となったが、財政当局と調整し、令和6年度から財政状況に左右されることなく毎年度 10 名の生徒を派遣することができた。 ハワイには、世界各国から語学留学の希望者が殺到しており、受け入れ先ホストファミリーを探すことが困難となっており、今後も早めの取組が必要である。</p> <p>③ 大山町児童交流事業は、移動時間に1日を要することから、異動手段の見直しや寒暖差による児童の体調管理が懸念である。また、あいさつやお礼など、児童が感じたことを伝えるため、原稿なしで話しができるようにしていきたい。</p>
対策	<p>① 小学校は、PCの対象学年を4～6年生とし、待機児童があまり出ないようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「プログラミング講座」で何をするのか、何を得られるのか等について、募集チラシに記載しても伝わらないため、子どもたちや保護者へ講座内容を見てもらう機会を作る必要がある。 ・ 小学校のPCが不具合等で使用できなくなることが想定されるため、定員もその分を見込んで減らす必要がある。 <p>② ハワイ短期留学事業は、10 名の派遣を実施することができた。世界的に人気のハワイは、受け入れるホストファミリーを探すことが困難となっており、ホストファミリーを探す時間を十分に設けられるよう早期の準備、人選を図っていきたい。</p> <p>③ 大山町児童交流事業は、事前学習を徹底し、あいさつやお礼など原稿なしで話しができるように指導及び助言をきめ細やかに行う必要がある。また、異動手段の見直しや寒暖差による児童の体調管理に常に気を配る必要がある。</p>
点検評価員 のご意見	<p>○プログラミング学習については、学校間や学年間の差が生じないように運営方法を工夫してほしい。</p> <p>○大山町児童交流事業は、可能な限り事前指導の回数や内容を検討し、指導に努めてほしい。</p> <p>○小学校においては、学校のPC環境を維持し、学校運営に支障がないよう放課後の講座を維持してほしい。</p> <p>○小学校におけるPCのリニューアルに取り組んでほしい。</p> <p>○課題及び対策の②と③が前年度と同じ記載になっている。対策に効果がなかったのであれば別の対策を再検討していただきたい。</p>

事業名	2 社会教育事業		
事業費(千円)	6,257	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	① 各社会教育団体の育成及び補助 ② 地域学校協働活動 ③ 自主サークル発足準備補助金 ④ 生涯学習フェスティバル「はいさい！いちやりば祭」の実施		
本事業の目標	① 社会教育団体を育成することにより、社会教育活動の充実、促進を図る。 ② 子どもたちの成長を地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行うことが必要であることから、幅広い地域住民や企業・団体等の参画により、地域の実情に応じた様々な取組を行いながら、地域社会全体の教育力の向上を図り、地域の活性化や子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを推進する。 ③ 町内で活動する社会教育学級に対し、自主運営が可能な団体へ育成するための補助金を交付することにより、町民が自主的かつ組織的な教育活動の促進を目的としている。 ④ 町民が楽しみながら、文化芸術に触れる機会や社会教育が体験できる場を提供することで生涯学習への興味・関心を高めるとともに、かでなっ子と教育委員会が協働で祭りの運営をすることで、子どもたちの自主性と社会性の育成に資することを目的とする。		
進捗	① 社会教育団体(社会教育係の補助団体(町連合青年会・町PTA連合会・町子ども会育成連絡協議会・町文化協会・町女性会・町青少年健全育成協議会)・社会体育係の補助団体(町体育協会・町スポーツ少年団連絡会議))へ補助金交付 ・これまで、社会教育係の補助団体において、会員数が増えず減少傾向にあることや事業への参加者が少ない等の共通課題があり、R6 年度初事業「はいさい！いちやりば祭」において、各団体のPR事業として各団体へブースを割り当て、運営することを提案し、町連合青年会(白竜演舞、エイサー体験、エイサー着付け体験)、町子ども会育成連絡協議会(お菓子釣り)、町文化協会(呈茶席、三線教室、うちな一ぐち紙芝居)、町女性会(お守り作り)が手をあげ、各団体の予算を用いてブース運営を行った。 ② 【地域コーディネーター3名(町立小中学校各校配置)】 ・学校からの依頼に基づき地域コーディネーターが学校支援ボランティアへ依頼し、学校へつなげている。 ・毎年学校支援ボランティアの募集をかけ、町立3校で 38 名の募集があり、活動者数は延209名となっている。 ・実施内容は:総合学習の講師、夢スクール講師、読み聞かせ、ミシンボランティア、裁縫指導、エイサー指導、面接官ボランティア、調理見守り等 ・屋良小学校の地域コーディネーターを担う方が変わり、当人の希望で週 1 回午前中に学校へ常駐する時間帯を設定し、教員や児童との顔のつながりや交流を図った。 ③ 近年申請が無く、R5年度に点検・評価委員から「社会教育学級補助金の名称		

	<p>から内容が分かりにくいこともその要因ではないか」ということで規則改正を行い、題名を「自主サークル発足準備補助金」とし、R6年度から施行し、町HPや広報にて周知した。</p> <p>④ 生涯学習フェスティバルとして役場庁舎及びその周辺施設(かでな文化センター、かでな未来館、ロータリー広場、ロータリープラザ)を使用し、大規模なイベントを新規実施。</p> <p>教育委員会が実施している事業の披露、教育委員会表彰・善行青少年表彰、ビブリオバトル大会、社会教育団体のPR活動、かでなっ子ハローワークを通した子どもたちをスタッフとして協働での開催、その他OISTや琉球大学による講座、移動式ドーム型プラネタリウム、ピエロによるバルーン教室など、親子向けの学びを多数提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町長部局の子育て支援センターがロータリープラザ内にあることから、声掛けし、同日開催として親子ヨガの開催も行われた。 ・ クイズラリーにて各会場に足を運ぶよう配置した。 ・ 狙いとしては、家族や親子が1日中滞在して楽しめるよう、キッチンカーの配置及び休憩場所の設置を行った。
<p>成果</p>	<p>① はいさい！いちゃりば祭で各団体のブースも来場者であふれており、祭りの盛り上がりにも一役買っていた。初の試みであったが、各団体も大盛況ぶりに大変喜んでいたので、今後も継続して参加して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体の事業が増えたことで、事業未執行による補助金の返還がいちゃりば祭に参加した団体からは出なかった。 <p>② 学校支援ボランティアの活動延べ人数が209名で、一人当たり5.5回の活動回数で、何度もボランティアを受けている方が多くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通学する子どもがいない地域の方や卒業生の保護者やOB等のボランティア参加者が多かった。(地域コーディネーターより) ・ 年々協力したいと思っている地域の方が協力しやすい環境になってきている。(地域コーディネーターより) <p>③ 1件(社交ダンスサークル)の申請あり。</p> <p>④ 手探りでの実施であったが、天候に恵まれ、延4,129人の来場者(実数は約1,200人)があり、来場者アンケートでも、面白かった、楽しかった、またやって欲しいなどの声が多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者が1日中滞在している方が多い様子であったため、居心地よく楽しめたのではないかとと思われる。 ・ OISTや琉大工学部などはその機関の出前講座を利用し、社会教育団体については、各団体の活動として当該団体の予算にて運営していたことから、こちらからの持ち出しが少なく済み、費用対効果が高い事業となった。 ・ 今回、指導主事の進行により、ビブリオバトル大会(書評合戦)を開催し、嘉手納

	<p>中学生、読谷村の中学生が参加。初めての生徒が多かったものの、大変すばらしいプレゼンをしていたということで、教育委員や観覧者から称賛の声があり、今後も継続して実施し、子どもたちの読書活動の促進につなげていきたい。</p>
<p>課題</p>	<p>① はいさい！いちゃりば祭では、来場者が多く、ブース運営に手がいっぱいになっており、各団体のPRが出来ていたかよく分からない状況だった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会教育団体への指導・助言を活発に行うために、社会教育主事の配置が必要 <p>② 地域連携の教員異動により地域コーディネーターとの連携がリセットされるため都度連携の再構築を要し、事業が安定しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校からの依頼に基づいてボランティアをコーディネートするため、登録している学校支援ボランティアでも希望分野に声がかからないことが多く、年々学校支援ボランティアの登録者が減っている。 <p>③ 当該補助金が、継続したサークル化へつなげるための補助金となっているため、連続した3年間で交付の上限となっている。その後、サークル化した後は、中央公民館の登録団体になることで施設使用料が無料となるため、活発な活動が続けられるような流れを作りたいが、その状況に至っていない。</p> <p>④ 想定外の来場者数からブースによって混乱が生じ、スタッフ間の連携がうまくいかない部分があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブースの場所が庁舎2F、地下展示室などは集客が他と比べ少なくなっていたため、動線やブースの配置場所の見直しが必要。 ・ 想定外の来場者数により、ブースによって材料等が早期に不足し、昼過ぎには撤去している場所もあったため、午後から来た来場者が体験できないものがいくつかあった。
<p>対策</p>	<p>① 各団体がPR活動後に会員数や事業参加者が増えたか等の分析をする必要があるが、また、はいさい！いちゃりば祭でのパンフレットやイベントチラシ等の配布などブースを活用したPRが主となるような工夫を要することを助言する。</p> <p>② 地域連携担当教諭への当該事業説明及び活用方法について、引き続き地域コーディネーターと共有し、粘り強く関係構築を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校へ社会教育主事を学校運営協議会の構成員に加えていただけるよう依頼し、学校側や地域の方と一緒に当該事業の進め方等について共有、推進していきたい。 <p>③ 当該補助金事業を中央公民館へ移管することにより、スムーズにサークル化へつなげることができる。(R7年度より移管)</p> <p>④ 各ブースで混乱が起きないように、共有徹底及び施設毎に統括を配置し、当日の調整を各施設で完結できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブースの配置及び各施設間の動線も考慮し、配置し直す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ブースが17時まで運営できるよう調整する。
点検評価員 のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学校協働活動が円滑に運営できるように、地域コーディネーターとの連携や引継ぎのあり方について検討してほしい。 ○事務移管によってサークル化が繋がっているか次年度以降確認したい。 ○「はいさい！いちやりば祭」について毎年度行う取り組みを継続してほしい

事業名	3 文化振興事業		
事業費(千円)	2,633	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 文化事業「重要無形文化財保持者等公演「組踊 孝行の巻」、組踊ワークショップ ② 放課後子ども教室(芸能教室) ③ 文化芸術活動派遣費補助(新規) 		
本事業の目標	町民との協働・参画型の文化事業を実施することにより、芸術文化に触れる機会や発表する場を増やし、町民が生涯を通して心豊かで潤いのある生活を送ることを目的とする。		
進捗	<ul style="list-style-type: none"> ① 沖縄県の補助金交付を受けて、沖縄県文化振興会(選定演者:伝統組踊保存会)が開催地として市町村を公募し、本町が選定され実現した。その上で、本町の屋良ムルチを題材とした「孝行の巻」の公演と、本町の子どもたちのみを対象とした「組踊ワークショップ」の要望が通った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度は、難しいと思われがちな組踊の導入として「シネマ組踊 孝行の巻」を上映し、次は本物の舞台を見せるという段階を踏んだ流れと、本町の屋良ムルチ伝説が題材になっていることも併せて町民へ知ってもらえるよう、2年連続で異なる形で体験していただくことで、より興味・関心を持ってもらえるよう試みての開催にした。 ・ 組踊ワークショップは、舞台の1週間前に実施し、当該舞台への演者が講師となり、「組踊とは」、組踊の所作や唱え(セリフ)の実演、「孝行の巻」はどんな物語かなどを町の小中学生を対象に定員20名で募集し、15名の参加があった。また、このワークショップの参加児童と保護者のみ舞台当日のバックヤードツアーも急遽実施していただけることとなった。 ② 子どもたちが直接体験できる場として「放課後子ども教室」を活用しての芸能教室を継続実施している。嘉手納学習等共用施設(通称:嘉手納児童館)にて、三線(初心者、経験者)、琴、太鼓、古武道、琉舞を地域の方が講師として教えている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 嘉手納児童館での芸能教室は、屋良小学校から遠く通いづらい状態にあり、公正性に欠ける状態であった。そこで、社会教育委員と話し合い、屋良地区への芸能教室の新設するために屋良小学校に一番近い東区コミュニティーセンターと協議を行うこととなった。 ③ 文化芸術面での町民の活躍が見込まれる中、優秀な成績を収め県外等へ派遣される方の町補助金がこれまでなかった(各種運動競技のみ対象はあり)ため、町民を応援するべく R5 年度に「各種運動競技における県外等派遣に関する補助金交付規則」を改正し、文化芸術活動を対象に加え、R6 年度より施行。 		
成果	① 県補助のため町民のみを対象とすることはできないが、主催者が全額負担ということで本町は周知用横断幕代のみで、国立劇場で開催するレベルの舞台をかたな文化センターで開催することができた。		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者は県内全域から320名程度であったが、主催者からは伝統芸能の公演でこんなに来場者が来るのはなかなか無いということで、大変喜んでおり集客率は高かったと想定される。 ・ 来場者アンケートでは、町内の方は47%と約半数を占め、女性が69%、70台以上が51%であったが、10～20代が10%来場していた。また、「今回初めて」の方が33%となっているが、「非常によかった、良かった」の回答が83%であった。 ・ 嘉手納町の屋良ムルチ伝説が題材になっていることで、興味深く見ることができた旨の感想も多く、組踊を演じる方からは難しい演目で、あまり公演することが無いということであったが、地元縁のある演目の選択で間違っていなかったと思う。 ・ ワークショップでは、講師の説明や実技指導がとても分かりやすく、また楽しく進めていたので、参加している子どもたち全員が講師を取り囲んで、目をキラキラさせながら、集中して話を聞き、自然と質疑が飛び交っていた。 見学していた保護者からも多くの笑い声が出ており、とても雰囲気もよく充実した講座が開催できた。 ・ ワークショップを舞台の1週間前に実施し、その流れで舞台鑑賞へ導き、事前の知識と今度は演者になった講師を見たいという気持ちをもって、ワークショップに来ていた子どもたちの多くが来場していた。また、保護者も一緒に、あまり経験することができないバックヤードツアーも開催できたことで、子どもたちだけでなく、保護者も組踊の虜になっている様子であった。 <p>② 嘉手納地区の芸能教室の子どもたちの中には、本格的な練習に取り組み、太鼓、三線や琴で試験を受けるなどし、琉楽普及賞や新聞社の賞など受賞した際は、受賞児童が町長・教育長を表敬訪問している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月中旬に社会教育委員のうち2名と東区自治会長(東区コミュニティーセンター指定管理者)と協議をもち、放課後子ども教室が地域の方との交流の場であることと、子どもたちの居場所づくりとしていることを踏まえて、経常的に地域に子どもたちが集まる仕組みづくりを行う旨を共有し、場所の使用許可をいただけたため、次年度から始められるよう進めることとなった。 <p>③ 1件の申請あり(小学生:ピアノコンクールにて県代表となり福岡県へ派遣)</p>
課題	<p>① 伝統芸能の公演は、来場者からは感動の声をいただき好評であるが、日ごろ馴染みのない方たちにも足を運んでいただくことが難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単発では興味・関心を持ち続けることが困難であるため、身近に伝統芸能に触れる機会を増やす必要がある。 <p>② 嘉手納児童館が次年度7月には改修工事を行うため移動の必要性が生じ、活動場所の選定や楽器等の道具を保管する場所などを早急に調整し、地域コーディネーターとの調整や講師から同意を得なければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸能教室は人気があるが、楽器の数(嘉手納児童館備品)や児童の習得度等により定員を調整しているため、待機が生じる。 ・ 東区コミュニティーセンターで芸能教室を新設するにあたり、三線の講師が見つ

	<p>かったが、三線が無いので、当初予算にて計上し購入後でなければ開始することができない。</p> <p>③ 開始したばかりではあるが、周知徹底し、必要な方が使えるようにしなければならない。</p>
対策	<p>① 次は、実際に伝統芸能を体験する機会の創出が必要と考える。前年度点検評価委員からも提案があった、児童劇団のような機会を子どもたちに作る。しかしながら、R7年度より文化事業が中央公民館へ移管することとなったため、その旨引き継ぐ。</p> <p>・ R7年度当初予算へ三線を備品購入費として計上する。</p> <p>② 各自治会(各区コミュニティーセンター)において、芸能教室後の子どもたちの受け皿となるような活動場所にできないか相談する。</p> <p>③ 町HPへの経常掲載及び広報、町LINE等での複数回周知を実施する。</p>
点検評価員のご意見	<p>○放課後子ども教室は、活動が充実できるように、調整及び備品等の管理に努めてほしい。</p> <p>○子ども芸能教室については、初級で終わるのではなく、継続して実施してほしい。</p> <p>○対策の②について前年度と記載が同じである。対策として効果がない場合は別の対策を検討いただきたい。</p> <p>○児童劇団のような機会を提供できるよう取り組んでほしい。地元がテーマとなるものを嘉手納にゆかりがある人に依頼等をして嘉手納版の新たな文化活性化事業の創出に取り組んでほしい。</p>

事業名	4 かでな文化センターの有効活用		
事業費(千円)	17,647	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<p>① 施設使用に関すること。</p> <p>② かでな文化センターの各設備保守点検業務委託、施設に係る修繕</p>		
本事業の目標	町民の文化活動の向上及び福祉の増進を図るため、設備の管理、保守及び機能向上をすることで、より快適に活用できる環境を整える。		
進捗	<p>① 稼働日161日／稼働可能日313日(稼働率51.44%:前年度比較△2.98%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料歳入額:3,433,900円(前年度比較:△1,670,250円) ・ 町内団体125回(前年度比:9回増)、町外団体35回(前年度比:△9) ・ 利用者数:31,911人(前年度比:△7,775人) <p>② 今後15年程度継続運営との方針が出されたため、天井耐震化に係る工事を行うに当たり、天井の電球をLEDへ交換する作業も同時に行うことで、工期短縮と足場費用が抑えられる旨で、年度当初に当該内容で庁議附議し、決定した。 (天井は耐震ネット装着、灯具(白熱球用)はそのままLEDの電球へ交換(LED電球業者提案)の工事を同時実施。工期半年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記工事を進める最中、照明の保守業者へ共有したところ、現灯具(白熱球用)ではそのLED電球は使用できないとの話が浮上し仕切り直しとなった。 (R7年度からは管理業務が中央公民館へ移管) 		

成果	① 町内団体の使用回数が、R6年度が H28 年以降過去最高回数となっていることから、町内団体が有効に使っていることが伺える。しかし、減免件数が増えるため、収入はその分減っている。
課題	① 会館の規模(914 席)に行政駐車場+有料駐車場(東駐車場、中央駐車場12時間100円)は730台となっているが、平日や他の施設使用が重複する場合に不足しており、また、近隣に大規模な駐車場が他になく、駐車場不足が課題となっている。 R7 年度から沖縄市民会館が無期限で閉館されるということで、近隣の会館へ予約が流れると予想され、申請が増えた場合は近隣への駐車違反等も増えることが想定される。 ② 天井の耐震化を急ぐ必要があるが、施設の老朽化により天井にネットを張った後に灯具取替工事となると、また別途足場を組み、ネットを外して、工事後にまたネットを張ってというように費用と工期がかさむため、優先順位を付けてまとめるものなどを選定したいが、そのための調査にも費用と期間を要するため、再度工事担当や保守業者と調整し、早く天井耐震工事に取り掛かる必要がある。
対策	① 行政駐車場(総務課担当)の立体化により台数を増やす。 ② 早急に対処するにはまず天井耐震工事を実施し、その他は都度修繕で対応していく。
点検評価員のご意見	○駐車場が確保できるような具体的な取組に期待したい。 ○安全面から天井耐震工事に早急に対応してほしい。 ○駐車場の立体化がされるまで課題が解決されない。整備されるまでの対策の検討をしてほしい。 ○施設利用については、町民利用が制限されないよう調整に努めてほしい。

事業名	5 社会体育の振興 ① スポーツ指導者等対象講習会、各種スポーツ教室、大会等事業(165) ② 各種スポーツ県外派遣補助事業(4,186) ③ 学校体育施設開放事業(15)		
事業費(千円)	4,366	自己評価	A (B)・C・D
事業の内容	① スポーツ指導者等対象講習会、各種スポーツ教室、大会等事業 ・ スポーツ指導者等対象講習会 ・ アクアサイズ教室 ・ ゴルフ教室 ・ 体力・運動能力調査(新体力テスト) ・ 親善ボウリング大会 ② 各種スポーツ派遣費補助事業 ③ 学校体育施設開放事業(運動場、体育館及び武道場)		

<p>本事業の目標</p>	<p>① スポーツ指導者等に救急救命に関する理論、実技の講習を実施することにより、危機管理に対する資質の向上を図る。各種スポーツ教室、講習会、大会等の事業を実施することにより、当該事業に参加した町民等の仲間づくりや健康の保持増進及びスポーツの日常化を図る。</p> <p>② 町民へ県外派遣費を補助することにより、スポーツに対する意欲の向上及び金銭的負担の軽減を図る。</p> <p>③ 町民の社会体育の振興を図るため、学校施設の運動場、体育館及び武道場を登録団体のスポーツ及びレクリエーション活動の場として開放する。</p>
<p>進捗</p>	<p>① 今年度は、スポーツ指導者等講習会 20 名、アクアサイズ教室23 名(延べ136 名)、職域親善ボウリング大会 59 名、ゴルフ教室 40 名(延べ 199 名)、・体力・運動能力調査(新体力テスト)18 名の事業を開催することができた。 特に近年、ゴルフ教室が人気となっており、講師を2名に増加して対応した。</p> <p>・ スポーツ教室やスポーツ大会を通して生涯スポーツとして楽しく、気軽に参加できる事業として、参加者が親睦や交流を深め、仲間づくりや健康づくりに取り組むことができた。 令和4年度からユンタンザパークゴルフ場と協定を結び、1回18ホールを読谷村民と同額でプレーすることができるよう負担金制度を導入したが、令和 5 年度からはすべての利用形態について料金を読谷村民と同額にした。また、新たに北谷町のパークゴルフ場も同様の協定を締結し、北谷町民と同様の料金でプレーできるようにしている。その結果、読谷村においては、前年度 429 人から 1,272 名へと2倍以上に利用者が増加している。</p> <p>② 各種スポーツ競技において、町民が沖縄県及び地区を代表して九州大会等への派遣決定がなされた場合、県外派遣費を補助しておりますが、144 名へ県外派遣補助を行った。</p> <p>③ 学校体育施設を登録団体へ開放することにより、継続的にスポーツを実施している町民の体力の向上、健康の保持増進が図られた。また、兼久体育館解体により、代替施設として学校体育施設開放事業の利用者が増加し、町民のスポーツの場及び健康増進に寄与している。 利用者数 延べ 11,526 名(登録団体数14 団体)</p>
<p>成果</p>	<p>① 天候の影響もなく、スポーツ教室やスポーツ大会を開催することができた。</p> <p>② 各種スポーツ派遣費補助事業は、町民への周知が図られており、多くの町民へ補助金を交付することができた。スポーツに対する意欲の向上及び選手や保護者の金銭的負担の軽減が図られた。また、本町から中学生レスリングで全国制覇する選手も出ており、町民の目覚ましい活躍がありました。</p> <p>③ 教育委員会、学校、登録団体の代表者と夜間警備員との連絡調整を図ることにより、スムーズに学校体育施設の利用を行うことができた。兼久体育館を利用していた町民が学校体育施設開放事業を利用し、前年度 8,619 名から 11,526 名へと増加し、継続してスポーツができる環境を創出できた。</p>

課題	<p>① 令和6年度は、スポーツ教室やスポーツ大会、スポーツ指導者等講習会及び体力・運動能力調査(新体力テスト)とも令和5年度を上回り、町民への周知が図られてきている。今後とも町民等の仲間づくりや参加者を増加させるため、軽スポーツを取り入れ、町民等への周知徹底を図り、参加者を増加させ、スポーツの日常化を図る必要がある。</p> <p>② 学校から「利用団体、利用時間が不明な場合があり、利用状況を確実に報告して欲しい」との要望がある。</p>
対策	<p>① 令和6年度から「町民スポーツレクリエーション」を廃止し、生涯学習フェスティバルである「はいさい！いちやりば祭」で軽スポーツを紹介することにした。子どもから大人まで楽しめる軽スポーツを普及させるため、今後もいろいろな場面において紹介していく必要がある。</p> <p>また、今後も開催方法や日程等も含め工夫した開催について引続き検討し参加者の増加に繋げたい。町民に軽スポーツを紹介することにより、スポーツに気軽に参加できるよう雰囲気づくりに努めたい。町民が生涯にわたり継続してスポーツに親しめるよう、スポーツ活動の日常化に向け引き続き推進していく。</p> <p>② 学校行事を把握し、教育委員会、登録団体の代表者と夜間警備員との連携を強化していく。</p>
点検評価員 のご意見	<p>○各小中学校の教頭と利用可能日時の確認の仕方について検討し、登録団体の活用に支障を来さないようにしてほしい。</p> <p>○スポーツのサークル団体が減っていると聞く、日常的に運動・スポーツを行うことを事業として検討してほしい。</p> <p>○町体育協会の存在が薄い。補助金で運営しているので各競技の活性化にもっと取り組んでほしい。</p> <p>○事業の周知より実施している内容に課題があるのではないか。目標としている「スポーツの日常化」に寄与しているのか検証してほしい。</p>

事業名	6 スポーツ団体の育成、環境の整備・充実		
事業費(千円)	18,000	自己評価	A (B)・C・D
事業の内容	<p>① スポーツ少年団の育成</p> <p>② 社会体育団体の育成</p> <p>③ スポーツ環境の整備充実</p>		
本事業の目標	<p>① 町スポーツ少年団に加入している児童生徒や社会教育団体が、スポーツを楽しむ環境を整備し、仲間づくりや技術力の向上を図る。</p> <p>② 町スポーツ少年団及び社会体育団体に所属している町民が、県又は地区を代表して県外へ派遣された場合等において、報奨金及び補助金を支給している。</p> <p>③ スポーツが日常的に安全に行うことができるよう施設、備品の整備充実を図っている。</p>		

進捗	<p>① 児童生徒に対して、学校、かでな振興(株)、地域企業などと調整を図り、練習場所の確保を図った。また、全国スポーツ少年団に加盟することにより、スポーツ指導者等講習会へ指導者等が参加しており、スポーツハラスメントが起こらない環境づくりに努めている。</p> <p>② 人材育成会から報奨金や補助金を支出し、経済的負担軽減を図っている。また、体育施設の優先予約や学校開放事業を実施し、スポーツの場の提供及び低廉な利用料金で、スポーツができるよう配慮している。</p> <p>② フットサルゴール1対の備品を購入し、利用者の利便性の向上を図った。</p>
成果	<p>① 県外へ野球チーム2団体、レスリング部が個人で派遣され、県内外で活躍している。レスリングにおいては、個人で全国制覇を成し遂げており、今後の活躍が期待される。また、スポーツ少年団へ70万円を補助しており、チーム運営資金として利用されている。</p> <p>② 体育施設の優先予約や学校開放事業を実施し、スポーツの場の提供することにより、スポーツの機会を作り、スポーツの日常化に寄与した。</p> <p>③ 今後とも利用者が安心して安全にスポーツ施設を利用できるよう、指定管理者と連携し、取り組んでいく。</p>
課題	<p>② 柔道やサッカーなど廃部したスポーツ少年団がある。</p> <p>② 町内スポーツ団体へは、体育施設の優先予約を行っているが、今後はスポーツツーリズムの関係で、大会やプロ野球キャンプ、実業団及び大学合宿が続く期間があり、施設の町民利用が制限される可能性がある。</p> <p>③ 大規模修繕になると、社会体育系の職員で対応ができないことがあるため、教育施設系のサポートが必要である。</p>
対策	<p>① 子供たちや町民がスポーツに親しむ環境や機会を創出する。</p> <p>② スポーツツーリズム担当者と連携を密にし、体育施設の利用の調整を図る。</p> <p>③ 日頃から指定管理者と連携し、スポーツ施設の点検を実施し、早期修繕に努め、必要に応じ教育施設系の協力を仰ぐ。</p>
点検評価員のご意見	<p>○施設利用については、町民利用が制限されないよう調整に努めてほしい。</p> <p>○公共施設は町民が利用するために整備しており町民の活動を制限して町外団体の予約を行っているのはおかしい。</p> <p>○子供たちや町民がスポーツに親しむ環境や機会の創出に取り組んでほしい。</p> <p>○目標としている「スポーツの日常化」の具体的な対策を行ってほしい。</p>

事業名	7 中学校部活動の地域展開		
事業費(千円)		自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<p>中学校部活動の地域展開とは、学校部活動から地域クラブ活動への転換を表す名称で、従来、学校内の人的・物的資源(学校の施設を含む)によって運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えていくことである。</p> <p>地域に存在する人的・物的資源を活用しながら、地域全体で支えることで可能となる新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を目指していくことである。</p>		
本事業の目標	<p>令和5年度～令和7年度改革推進期間、令和8年度～令和10年度を改革実行期間(前期)、令和11年度～令和13年度改革実行期間(後期)とし、全庁的に中学校部活動の地域展開に取り組む。</p>		
進捗及び成果	<p>生徒、保護者アンケート、部活動結成式での説明などを実施し、中学校部活動の地域展開の周知と理解、ニーズの把握に努めた。スポーツ少年団の指導者等に対して説明会を開催し、制度の理解促進、協力を求め、中学校部活動の地域展開の機運の醸成に努めた。</p>		
課題	<p>地域クラブ活動を担う運営団体・実施主体の体制整備等、指導者等の質の保障・量の確保、活動場所の確保、生徒・保護者等の関係者の理解促進、活動場所への移動手段の確保、大会やコンクール運営の在り方、生徒の安全確保のための体制整備、障害のある生徒の活動機会の確保など</p>		
対策	<p>令和7年度中、所管する教育指導課から引き継いだ課題を1つ1つ解決し、中学校部活動の地域展開を図っていく。</p>		
点検評価員のご意見	<p>○外部コーチのあり方については、学校と保護者の要望等を踏まえ、十分に検討して進めてほしい。</p> <p>○課題を調査し、具体的に取り組める部分を示し実施してほしい。</p>		

中央公民館

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	7 事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果 B:目標達成する成果 C:目標達成に至らず D:未執行
			B	6事業	
			C	1事業	
			D	事業	
本課における事業の総括					
<p>1 学習内容の充実を図り、魅力ある講座を開設することにより生涯学習の推進を図ることができた。</p> <p>2 自治公民館講座を支援し、地域の生涯学習活動を推進した。</p> <p>3 前年度より多くのサークルへ活動場所を提供し、自主的活動を推進することができた。</p> <p>4 「嘉手納町の沖縄戦資料保存事業」にて嘉手納町出身の方々に沖縄戦の体験を語っていただくことで、次世代へ戦争の記憶を継承する記録映像及びパネル等資料を制作できた。</p> <p>5 展示室の団体見学を多く受け入れ、また講座等を実施することで多くの方に嘉手納町の歴史や文化を普及できた。</p> <p>6 埋蔵文化財保護として、基地内で実施される埋蔵文化財の試掘調査立会、過年度に調査を実施した遺跡の資料整理を実施した。また、町指定文化財の大デイゴの追加指定に向けて準備を行った。</p> <p>7 地域住民の活動拠点として多く活用された。</p>					

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 公民館講座		
事業費(千円)	880	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<p>町民を対象に下記講座を実施した。</p> <p>開催講座:21講座(99回)</p> <p>中止講座:3講座(ベンガラ染め、中医学健康講座、酵素玄米講座)</p> <p>受講者:定員数 1,544 人、受講者数 1,342 人</p> <p>(開催講座)</p> <p>沖縄生まれの気質学、嘉手納町の遺跡、月桃編み教室、陶芸教室、三線教室、美文字講座、健康マージャン教室、キャラ弁教室、タイルアート時計作り、グアテマラ織り物、初心者向け フラダンス、クリスマスリース作り教室、メディカルヨガ、春の薬膳料理教室、島野菜でベジキムチ作り、3B 体操、オーガニックぬか床作り、リズムストレッチ(真美体操)、パステルアート、タイルクラフト教室、水辺の安全講座(カヤック体験)</p>		
本事業の目標	<p>生活に即する教育、文化、健康づくりに関する各種講座の開催によって、町民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。</p>		
進捗及び成果	<p>令和6年度は24講座を企画し、21講座を開催できた。成人向け講座以外に、小学生向け講座や親子講座を開催することにより幅広い年代が講座へ参加した。</p>		

【公民館講座 累計参加者数上位5講座】				
順位	講座名	累計参加者数	講座1回あたりの参加者数	時間帯
1位	健康マージャン教室	272人	27.2人	19:00-21:00
2位	三線教室	196人	19.6人	18:30-20:30
3位	美文字講座	173人	17.3人	19:00-21:00
4位	初心者向けフラダンス	128人	16.0人	14:00-16:00
5位	リズムストレッチ	118人	14.8人	10:00-12:00
【公民館講座 1回あたり参加者数上位5講座】				
順位	講座名	累計参加者数	講座1回あたりの参加者数	時間帯
1位	オーガニックぬか床作り	28人	28.0人	18:30-20:30
2位	健康マージャン教室	272人	27.2人	19:00-21:00
3位	水辺の安全講座 (カヤック体験)	20人	20.0人	10:00-13:00
4位	三線教室	196人	19.6人	18:30-20:30
5位	島野菜でベジキムチ作り	18人	18.0人	10:00-13:00
課題	毎年男性の参加者が少ないため、講座を実施する曜日や時間帯の工夫を行ったが、男性の参加が目覚ましく増加する等の実績は得られなかった。引き続き幅広い世代が参加しやすい講座の実施を検討する必要がある。			
対策	近隣市町村や沖縄県・中部地区公民館連絡協議会、社会教育指導員連絡協議会などからの情報を活用する。 併せてホームページ等を活用し、講座受講者や公民館来館者等へアンケート調査を実施し、どのような講座の開設が求められているか実態の把握に努め、ニーズに即した講座の企画を目指す。			
点検評価員のご意見	○男性の参加者について具体的な対策をおこなってほしい。 ○昨年度に比べ、定員数及び受講者数が増えたことは評価できる。			

事業名	2 自治公民館講座		
事業費(千円)	156	自己評価	A・B・ ◎ ・D
事業の内容	<p>地域住民の学習機会を拡充するため、各自治会が主体となり講座を実施するものである。令和6年度は3自治会が計4講座を実施した。</p> <p>(令和6年度実績)</p> <p>中央区自治会(ウクレレ:全5回、延べ参加人数:38人)</p> <p>中央区自治会(オイルフットトリートメント:全3回、延べ参加人数:31人)</p> <p>南区自治会(紅型染及び手芸教室:全5回、延べ参加人数:129人)</p> <p>北区自治会(おかし作り教室:全4回、延べ参加人数:65人)</p>		
本事業の目標	生活に即する教育、学術及び文化に関する各種講座の開催によって、町民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。		
進捗及び成果	<p>前年度より自治公民館講座を実施した自治会が増加した。</p> <p>また、複数の講座を開催することにより多くの参加者があり、町民の教養等の向上を創出することができた。</p>		
課題	令和5年度より令和6年度は自治公民館講座を実施した自治会が増加したものの、全ての自治会における講座の開設には至っていない。		
対策	社会教育指導員連絡協議会などからの情報や、中央公民館で実施した講座情報、併せてアンケート調査結果を自治公民館と共有していく。また、令和7年度からは自治公民館講座の専従職員を希望する自治会へ配置し、事業の拡充を図る。		
点検評価員のご意見	<p>○専従職員配置により事業が拡大することに期待したい。</p> <p>○昨年度に比べ、参加自治会が増え評価できる。</p>		

事業名	3 公民館サークル			
事業費(千円)	0	自己評価	A・ B ・C・D	
事業の内容	サークル活動拠点の提供 サークル登録団体:20 団体 施設利用回数:416回 (サークル団体名)			
		内 容	サークル名	人 数 年間活動日数
	1	薬膳料理	薬膳料理サークル	7 7
	2	琉球舞踊	花笠隊	11 22
	3	ヨガ	モーニングヨガサークル	6 33
	4	ラテンダンス	ラテン DS	11 38
	5	ストレッチ体操	真美ストレッチサークル	10 14
	6	ヨガ	ヨガサークル	8 37
	7	カラオケ	歌謡サークル小鳩	11 18
	8	ヨガ	kadena で yoga ら night	14 36
	9	折り紙	折り紙サークル	12 9
	10	三線	かでな一んちゅ三線サークル	15 7
	11	ペーパークイリング	ペーパークイリングサークル	11 9
	12	タティングレース	タティングレースサークル ジョセフィン	18 39
	13	マージャン	ウェルネスマージャンサークル	11 20
	14	書道	嘉手納書道	12 26
	15	PC 音源合唱	比謝川メイツ	9 17
	16	フラダンス	オルオル・レファ	8 25
	17	フラダンス	フラサークル	11 4
	18	民話	民話チームかでな	10 8
	19	マージャン	健康マージャンサークル	10 39
20	結書(書道)	結書かでなサークル	15 8	
本事業の目標	実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種講座の開催によって、町民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。 また、中央公民館講座をきっかけに町民の生涯学習の活性化、自主的活動(サークル活動)に貢献する。			
進捗及び成果	令和6年度は2月・3月に行った改修工事の影響により、前年度と比較すると施設利用回数は減少しているが、令和6年度の登録団体は前年度より3サークル増加した。各サークルとも活発に活動を行っており生涯学習の活性化に貢献できている。			
課題	引き続き時代に即した多様な生涯学習の機会創出の必要がある。			
対策	公民館講座をきっかけにサークルを結成するケースが多くあるため、アンケート調査の結果などを参考に、引き続き公民館講座の充実を図り、サークル活動発足の足掛かりをつくる。			

点検評価員 のご意見	<p>○サークルが増えたことは評価できる。</p> <p>○今後は、アンケートの結果について、分析をし、それに基づいた取組の工夫等を示してほしい。</p> <p>○対策について、昨年度と同様の内容になっている。</p> <p>○中央公民館サークルだけでなく、町全体のサークル団体の登録管理を行ってほしい。</p> <p>○サークル活動が活発化され施設利用が向上している。活動がさらに推進できるように他のコミュニティ施設と連携してほしい。</p>
---------------	--

事業名	4 戦争記録の保存・継承																																										
事業費(千円)	12,562	自己評価	A・ B ・C・D																																								
事業内容	① 戦争記録の保存・継承・活用 ・嘉手納町の沖縄戦資料保存事業																																										
本事業の目標	戦争を知らない世代が多くなる中、次世代へ戦争の悲惨な体験や教訓を継承する。																																										
進捗及び成果	① 戦争記録の保存継承 ・嘉手納町の沖縄戦資料保存事業 ▶ インタビュー撮影 14名 ▶ DVD制作 8枚(インタビュー映像7名分及びダイジェスト版1枚) ▶ パネル制作 20枚 ・歴史・文化講座の実施(件数:4件 人数:442人) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>団体名</th> <th>日付</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>嘉手納中学校3年生</td> <td>6/4</td> <td>沖縄戦について</td> <td>132名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>嘉手納中学校2年生</td> <td>6/11</td> <td>沖縄戦について</td> <td>145名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>嘉手納中学校1年生</td> <td>6/11</td> <td>沖縄戦について</td> <td>140名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>嘉手納っ子学童クラブ</td> <td>6/21</td> <td>沖縄戦について</td> <td>25名</td> </tr> </tbody> </table> ・企画展の開催 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日程</th> <th>対象者</th> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>6月1日～30日</td> <td>全年齢</td> <td>姿を変えた橋(沖縄戦パネル展)</td> <td>62名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>6月23日</td> <td>全年齢</td> <td>慰霊の日 展示室無料開放</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table>				団体名	日付	内容	人数	1	嘉手納中学校3年生	6/4	沖縄戦について	132名	2	嘉手納中学校2年生	6/11	沖縄戦について	145名	3	嘉手納中学校1年生	6/11	沖縄戦について	140名	4	嘉手納っ子学童クラブ	6/21	沖縄戦について	25名		実施日程	対象者	事業名	参加人数	1	6月1日～30日	全年齢	姿を変えた橋(沖縄戦パネル展)	62名	2	6月23日	全年齢	慰霊の日 展示室無料開放	7名
	団体名	日付	内容	人数																																							
1	嘉手納中学校3年生	6/4	沖縄戦について	132名																																							
2	嘉手納中学校2年生	6/11	沖縄戦について	145名																																							
3	嘉手納中学校1年生	6/11	沖縄戦について	140名																																							
4	嘉手納っ子学童クラブ	6/21	沖縄戦について	25名																																							
	実施日程	対象者	事業名	参加人数																																							
1	6月1日～30日	全年齢	姿を変えた橋(沖縄戦パネル展)	62名																																							
2	6月23日	全年齢	慰霊の日 展示室無料開放	7名																																							
課題	・嘉手納町の沖縄戦資料保存事業 ▶ インタビュー映像が7名分未編集となっている。 ▶ 過年度に沖縄県が撮影した映像についても、閲覧できるよう調整が必要。 ▶ 事業完了は令和7年度末ではあるが、令和6年度に制作した映像及びパネルについては、早く公開できるよう段取りする必要がある。 ・歴史・文化講座の実施 ▶ 講座の利用について、利用する学校に偏りがあるため、改善を図る。 ・企画展の開催																																										

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎年慰霊の日がある6月に沖縄戦関連の企画展を開催しているが、より多くの人に観覧してもらえるような方法の検討が必要。
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嘉手納町の沖縄戦資料保存事業 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 令和7年度内で編集を完了するため、事業の発注をスムーズに行えるよう段取りを行う。 ➤ 沖縄県と調整し、過年度撮影資料についてはご家族の承諾書を添付のうえ、県に許可申請を出すことで利用可能ということになった。ご家族へ事業内容の説明を行い、7名分の映像編集を実施予定。 ・ 歴史・文化講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ➤ パンフレットを校長会等で配布・説明を行い、周知に努める。 ・ 企画展の開催 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 例年、かでな未来館2F エントランスフロアにて展示会を開催しているが、R7年度は1F コミュニティホールに会場を確保し展示会を開催予定。
点検評価員のご意見	<p>○戦争記録の保存継承は、DVD やパネルの貸出等、小中学校との連携に努めてほしい。</p> <p>○学校との連携は周知だけでなく具体的に授業での取組みとして連携してほしい。</p>

事業名	5 地域の歴史や多様な文化等の継承・振興																																																														
事業費(千円)	24,245	自己評価	A・ B ・C・D																																																												
事業内容	①地域の歴史の継承と活用 ・常設展示室団体ガイド ・企画展・講座の開催																																																														
本事業の目標	地域の歴史を記録保存し、講座や企画展等を通じてその周知及び継承を図る。																																																														
進捗及び成果	① 地域の歴史の継承と活用 ・ 常設展示室団体ガイドの実施 1) 団体見学 実績(件数:12件 人数 377人) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>団体名</th> <th>日付</th> <th>内容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>嘉手納中学校</td> <td>4/12</td> <td>常設展示室ガイド+企画展見学</td> <td>19名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>平和記念資料館</td> <td>5/10</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>嘉手納町人材育成会</td> <td>6/8</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>嘉手納町人材育成会</td> <td>7/31</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>嘉手納っ子学童クラブ</td> <td>8/15</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>嘉手納町立外語塾</td> <td>9/19</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>嘉手納高校3年生</td> <td>9/19</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>22名</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>嘉手納高校3年生</td> <td>9/26</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会福祉協議会</td> <td>10/18</td> <td>常設展示室ガイド</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>屋良小学校3年生</td> <td>1/22</td> <td>常設展示ガイド+資料観察会</td> <td>73名</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>沖縄国際大学</td> <td>2/18</td> <td>常設展示ガイド</td> <td>17名</td> </tr> </tbody> </table>				団体名	日付	内容	人数	1	嘉手納中学校	4/12	常設展示室ガイド+企画展見学	19名	2	平和記念資料館	5/10	常設展示室ガイド	4名	3	嘉手納町人材育成会	6/8	常設展示室ガイド	11名	4	嘉手納町人材育成会	7/31	常設展示室ガイド	38名	5	嘉手納っ子学童クラブ	8/15	常設展示室ガイド	40名	6	嘉手納町立外語塾	9/19	常設展示室ガイド	25名	7	嘉手納高校3年生	9/19	常設展示室ガイド	22名	8	嘉手納高校3年生	9/26	常設展示室ガイド	11名	9	社会福祉協議会	10/18	常設展示室ガイド	10名	10	屋良小学校3年生	1/22	常設展示ガイド+資料観察会	73名	11	沖縄国際大学	2/18	常設展示ガイド	17名
	団体名	日付	内容	人数																																																											
1	嘉手納中学校	4/12	常設展示室ガイド+企画展見学	19名																																																											
2	平和記念資料館	5/10	常設展示室ガイド	4名																																																											
3	嘉手納町人材育成会	6/8	常設展示室ガイド	11名																																																											
4	嘉手納町人材育成会	7/31	常設展示室ガイド	38名																																																											
5	嘉手納っ子学童クラブ	8/15	常設展示室ガイド	40名																																																											
6	嘉手納町立外語塾	9/19	常設展示室ガイド	25名																																																											
7	嘉手納高校3年生	9/19	常設展示室ガイド	22名																																																											
8	嘉手納高校3年生	9/26	常設展示室ガイド	11名																																																											
9	社会福祉協議会	10/18	常設展示室ガイド	10名																																																											
10	屋良小学校3年生	1/22	常設展示ガイド+資料観察会	73名																																																											
11	沖縄国際大学	2/18	常設展示ガイド	17名																																																											

	12	嘉手納小学校 3 年生	3/4	常設展示ガイド+資料 観察会	107 名																														
	<p>・ 企画展・講座の開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日程</th> <th>対象者</th> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4 月 2 日～ 19 日</td> <td>全年齢</td> <td>新収蔵品展</td> <td>101 名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>11 月 3 日</td> <td>全年齢</td> <td>かでなのまちあるき(嘉手納)</td> <td>5 名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11 月 3 日</td> <td>全年齢</td> <td>文化の日 展示室無料開放</td> <td>421 名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>11 月 12 日～ 12 月 1 日</td> <td>全年齢</td> <td>嘉手納の移民パネル展</td> <td>43 名</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3 月 9 日</td> <td>全年齢</td> <td>かでなのまちあるき(屋良)</td> <td>8 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 「かでな歴史マップ」の制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 町史編纂審議会にて審議を実施。 <p>・ 「町制施行50周年記念事業 町功労者等まちづくり座談会事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 町史編纂審議会にて審議を実施、部門を分けての開催すること、パネル制作の建議を頂いた。 						実施日程	対象者	事業名	参加人数	1	4 月 2 日～ 19 日	全年齢	新収蔵品展	101 名	2	11 月 3 日	全年齢	かでなのまちあるき(嘉手納)	5 名	3	11 月 3 日	全年齢	文化の日 展示室無料開放	421 名	4	11 月 12 日～ 12 月 1 日	全年齢	嘉手納の移民パネル展	43 名	5	3 月 9 日	全年齢	かでなのまちあるき(屋良)	8 名
	実施日程	対象者	事業名	参加人数																															
1	4 月 2 日～ 19 日	全年齢	新収蔵品展	101 名																															
2	11 月 3 日	全年齢	かでなのまちあるき(嘉手納)	5 名																															
3	11 月 3 日	全年齢	文化の日 展示室無料開放	421 名																															
4	11 月 12 日～ 12 月 1 日	全年齢	嘉手納の移民パネル展	43 名																															
5	3 月 9 日	全年齢	かでなのまちあるき(屋良)	8 名																															
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展示室団体ガイドの実施 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 団体見学を希望する学年が固定化されているため、他の学年でも利用できるようなガイドやメニューを検討する。 ・ 企画展・講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 年代問わず多くの人に参加頂けるような企画展、講座の開催を検討する。 ・ 「かでな歴史マップ」の制作 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用対象及び活用方法を想定し、内容を制作する必要がある。 ・ 「町制施行 50 周年記念事業 町功労者等まちづくり座談会事業」 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 座談会開催にむけて、テーマ及び参加予定者の丁寧な選考が必要。 																																		
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史・文化講座及び常設展示室団体ガイドの実施 <ul style="list-style-type: none"> ➤ パンフレットを校長会等で配布・説明を行い、周知に努める。 ・ 企画展・講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ➤ まち歩きについては、少人数ではあるが、好評だったため継続して実施。 ・ 「かでな歴史マップ」の制作 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 次世代を担う子ども達に地域の歴史文化を知ってもらう事を主目的に、マップ制作を行い、配布を検討する。 ・ 「町制施行 50 周年記念事業 町功労者等まちづくり座談会事業」 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 座談会の内容及び人選について、関係者よりヒアリングを行い検討を進める。 																																		
点検評価員 のご意見	<p>○企画展・講座については、地域の歴史の周知・継承が図られているかを評価し、事業内容及び運営方法を検討してほしい。</p> <p>○まち歩きについては、「かでな歴史マップ」を活用し行き、拡充を検討してほしい。</p>																																		

	<ul style="list-style-type: none"> ・屋良グスク試掘調査見学会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 屋良小学校へ呼び掛けを行い見学会を開催した。6年生が見学に来訪し、掘削作業や出土遺物について見学した。 ・自主講座の開催 <table border="1" data-bbox="531 324 1461 584"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施日程</th> <th>対象者</th> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8月4日</td> <td>小中学生</td> <td>夏休み子ども向けイベント(勾玉づくり)</td> <td>27名</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8月18日</td> <td>小中学生</td> <td>夏休み子ども向けイベント(土器づくり)</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>11月3日</td> <td>全年齢</td> <td>土器づくり(いちゃりば祭)</td> <td>10名</td> </tr> </tbody> </table>		実施日程	対象者	事業名	参加人数	1	8月4日	小中学生	夏休み子ども向けイベント(勾玉づくり)	27名	2	8月18日	小中学生	夏休み子ども向けイベント(土器づくり)	21名	3	11月3日	全年齢	土器づくり(いちゃりば祭)	10名
	実施日程	対象者	事業名	参加人数																	
1	8月4日	小中学生	夏休み子ども向けイベント(勾玉づくり)	27名																	
2	8月18日	小中学生	夏休み子ども向けイベント(土器づくり)	21名																	
3	11月3日	全年齢	土器づくり(いちゃりば祭)	10名																	
課題	<p>① 文化財の保存 (民俗文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町には旧字のうち4団体が町指定無形民俗文化財を保持し、活動を行っている。それらの団体に対し助成金交付や各種芸能大会の推薦手続き補助といった形で支援を行っており、令和5年度末からは1団体について継承者を募集するポスター制作および周知の支援も行っている。しかし、依然として継承者は減少の傾向にあり、保存も危ぶまれる状況にある。 <p>(記念物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町指定文化財「屋良のシリーガー」の井戸手前に土が堆積しており、井戸側に流れ込む可能性があり、保護のため撤去が必要。 ・前年度文化財調査審議会にて審議した「嘉手納小学校の大デイゴ」の追加指定(員数1⇒2)について、追加指定がまだ実施出来ていないため、令和7年度で指定を行い、周知を図る。 <p>(埋蔵文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋良城跡公園内においてまだ試掘調査を実施出来ない場所があり、グスク西側(遊歩道崖上)の曲輪群の詳細な把握が実施出来ておらず、教育委員会としての工事に対する正式な回答文が作成できていない。 ・過年度の予備調査を含めた、調査内容の町民への周知が実施出来ない。 <p>② 文化財の活用</p> <p>文化財巡りについては希望する学校・学年が固定化されているため、広く利用できるようなガイドやメニューを検討する必要がある。</p>																				
対策	<p>① 文化財の保存 (民俗文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保存継承ができるよう支援を実施する。また、各民俗文化財の映像や衣装、楽譜、音源等の記録ができるよう努める。各団体にどのような支援が必要か聞き取りを行い、今後も引き続き保存継承できるように努める。 																				

	<p>(記念物)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「屋良のシリーガー」の堆積土撤去作業を実施する。 ・「嘉手納小学校の大デイゴ」の追加指定後に、町広報記事に特集を組み、町民への周知を図る。大デイゴが所在する嘉手納小学校にて、講話や講座等を実施し、小学生への周知を図る。 <p>(埋蔵文化財)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の屋良城跡文化財調査では、令和6年度試掘調査を実施出来なかった場所の試掘調査を実施し、盛土の厚さ、遺物包含層の厚さ、遺構状況の把握に努め、併せてグスク西側の曲輪群の縄張り把握のための調査を実施する。また、調査内容をより正確にするために、調査現場にグスク研究の第一人者の眞嗣一先生(沖縄考古学会顧問、グスク研究所主宰)をお呼びして調査に関する指導・助言を頂く。 ・現在までの調査成果を踏まえた調査速報展を実施し、町民への調査の周知を図る。 <p>② 文化財の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを校長会等で配布・説明を行い、周知に努める。
点検評価員 のご意見	<p>○歴史・文化講座の実施については、利用団体が増えるように内容等を検討してほしい。</p> <p>○文化財にスポットをあて講座等を行い評価できる。</p>

事業名	7 生涯学習の活動施設の充実		
事業費(千円)	26,600	自己評価	A (B)・C・D
事業の内容	<p>① 社会教育施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かでな未来館の管理運営 ➤【1F コミュニティーホール】旧字や各種団体等の会議や研修、放課後子ども教室の場として使用。 ➤【2F 歴史民俗資料室】嘉手納町に関する資料の通史展示を行っている。 ➤【3F 会議室/共用型オープンスペース】各種団体等の会議や研修、放課後子ども教室や自主学習などの場として使用。 ➤【4F 収蔵庫、書庫】町の歴史・文化的資料を収集・保管し、歴史・文化講座や企画展、町史等刊行物制作にこれらの資料を活用し、教育普及を図っている。 		
本事業の目標	地域住民の活動拠点として、また生涯学習の場として利用促進を図る。		

進捗及び成果	令和6年度施設使用実績		
	施設名	使用回数	使用人数
	1F コミュニティーホール	246 回	10,630 人
	2F 歴史民俗資料室	—	1,358 人 ※閲覧人数
	3F 共用型オープンスペース (会議室)	119 回	4,114 人
	3F 共用型オープンスペース (共用スペース)	147 回	437 人
	<p>【主な用途】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 旧字の総会、敬老会、エイサー練習、会議 ➤ 文化協会やPTA 連合会など町補助団体の会議 ➤ 放課後子ども教室 ➤ 地域住民のタンカーユエーや清明祭時の門中の集い 等 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化協会や嘉手納町 PTA 連合会など様々な町補助団体に使用され、地域の活動拠点の役割を果たしつつあるが、生涯学習の場としての利用が低い傾向にある。 		
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「放課後子ども教室」等事業をかでな未来館で実施することにより、生涯学習の場として定常的に活用してもらおう。また、夏休みなど長期休暇期間に共用型オープンスペースを児童生徒向けに開放し、自由研究の課題を提案することを検討する。 		
点検評価員 のご意見	<p>○「放課後子ども教室」等事業をかでな未来館で実施するように、様々な事業との施設利用のあり方を今後も検討してほしい。</p> <p>○施設利用については、町民利用が制限されないよう調整に努めてほしい。</p>		

1 令和6年度における事業の概要

主要事業数	3事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果 B:目標達成する成果 C:目標達成に至らず D:未執行
			B	3事業	
			C	事業	
			D	事業	

図書館における事業の総括

1. 利用者へ生涯学習の場を提供する事に加え、図書館職員が学校へ出向く出張講座やキャリア教育に携わるなどの取り組みができ、サービスの向上に寄与した。
2. ブックスタート事業では、新しいオリジナルバッグを導入し、インスタ等の案内を同封するなど、保護者が図書館に興味を示すよう工夫をした。セカンドブックは2年目となり、新一年生を対象にした「おすすめ本」の紹介や図書館利用の案内を同封し本と図書館に興味を持つよう努めた。
3. 読谷村立図書館との相互利用協定に基づき、両地域の住民に対し学習の場と図書資料を提供した。併せて、としょかん通帳を町民限定としていたが利用者全体へ配布するようにした。

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 図書館業務		
事業費(千円)	44,547	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料の収集・整理・保存 ・図書資料の閲覧・貸出 ・図書館に関する広報 ・年間貸出冊数など図書館利用に係る統計・調査 ・他館との相互貸借・リクエストサービス ・町内学校司書との定期的な研修会開催による連携 ・図書館行事の企画・立案・実施 ・図書館協議会に係る事務 ・レファレンスサービス ・その他図書館奉仕(サービス)に関すること 		
本事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館法に基づき健全な図書館運営を図り、図書・記録その他必要な資料を収集・整理・保存を行い、町民等の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする。 ・第五次総合計画に基づき、気軽に利用できる図書館づくりと館内行事の充実を図る。 		

進捗	<資料区分別蔵書冊数>(令和7年3月31日現在)									
		一般書	児童	郷土	絵本	紙芝居	雑誌	合計		
	R5	50,760	14,892	7,466	11,654	1,077	4,091	89,944		
	R6	49,648	14,558	7,529	11,694	989	3,976	88,398		
	※DVD(4)含む									
進捗	<年間貸出冊数・貸出人数・入館者数状況>(令和7年3月31日現在)									
		一般書	児童書	郷土書	絵本	紙芝居	雑誌	貸出冊数	貸出人数	入館者数
	R5	30,622	12,538	1,552	16,679	290	4,311	65,992	14,466	43,730
	R6	34,563	16,571	1,843	20,784	424	4,374	78,559	16,923	55,021
成果	<p>・「雑誌」及び「図書」の譲渡会を開催し、多くの利用者へ譲渡することができた。雑誌：町内外 200 名の方へ 1,101 冊。図書：団体・町内外 262 名の方へ 2,215 冊譲渡。(R5年度は雑誌：194 名の方へ 951 冊、図書：215 名の方へ 1,376 冊譲渡)</p> <p>・令和6年度督促対象者：2 名</p> <p>・多くの図書館事業(子ども向け、大人向け、親子参加等)の実施により、サービス向上及び入館者数増へとつながった。(親子お泊り会・夏休みイベント・Night Café・ブラックシアターお話し会・クイズウォークラリー等)</p> <p>・毎年恒例の「読み聞かせサークル」による読み聞かせ会及び Xmas イベントを行うとともに、毎月 2 回のお話し会(ボランティア及び職員が開催)や、「ブラックシアター」お話し会により読書活動推進に寄与した。</p> <p>・七夕の短冊にリクエスト制度の周知を兼ねて本のリクエスト短冊も追加。多くの参加がありその中から 11 冊のリクエスト本を購入し、読書意欲の向上に寄与した。</p>									
課題	<p>・館内の魅力ある書架作りや展示、掲示の工夫が必要</p> <p>・行事について利用者の希望の把握が必要。</p>									
対策	<p>・先進館への視察を含め、職員の研修に取り組む。</p> <p>・行事の開催後にアンケートを実施し次回の参考にする。</p>									
点検評価員のご意見	<p>○本の貸出人数が、昨年度より増えているのは評価できる。</p> <p>○蔵書冊数は減少傾向にあるが、可能な限り増やしてほしい。</p> <p>○対策について、昨年度と同様の内容になっている部分がある。</p> <p>○ひきつづき、読書が推進される事業を進めてほしい。</p>									

事業名	2 ブックスタート事業・セカンドブック事業		
事業費(千円)	469	自己評価	A・ B ・C・D
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児とその保護者に対し、一般検診会場にて絵本のよみきかせや配布を実施 ・新1年生の就学前検診に併せ絵本の配布とイベントを実施 		
本事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を通して親子がふれあい、心を通わせる時間を持つことの大切さ、絵本の魅力を知ってもらう。(ブックスタート) ・自ら絵本を選ぶことで関心を高め、楽しく読書習慣を育むことを目的とする。(セカンド) 		
進捗	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の認知度も年々高くなっており、支援員もベテランであることからスムーズに事業は行えている。(ブックスタート) ・セカンドブック事業は2年目になる。本と図書館に興味を持てるよう周知ができた。(セカンド) 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の受け渡し時に、支援員による読み聞かせのレクチャーを行い、家庭での読み聞かせの方法を伝えることができた(ブックスタート) ・対象者 91 名に対し 105 名の受取(受取率 115%)(ブックスタート) (内訳:R6 年度対象 78 名(受取率 85.7%)、前年度対象者 27 名) ・自ら本を選ぶことで本に親しみを抱き、「ひとり読み」につながるように寄与した。 ・対象者 138 名に対し 110 名の受取(受取率 79.7%)(セカンド) 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家事や育児で忙しい中でも家庭で行う読み聞かせの魅力を知ってもらう工夫が必要(ブックスタート) ・当日、利用カードを作成した後の図書館利用につながるよう案内が必要(セカンド) ・両事業とも未受取の方へのフォロー対応が必要。 		
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせに関する資料や図書館でのお話し会の案内を配布する ・図書館の年間行事表やお話し会の日程表を配布し来館を促す。 ・受取していない対象者にハガキを送付(ブックスタート)、併せて SNS でも呼びかける。 		
点検評価員のご意見	<ul style="list-style-type: none"> ○セカンドブック事業については、新1年生に向けての取組なので、各小学校においての読書活動に繋がるような連携のあり方を検討してほしい。 ○対策について、昨年度と同様の内容になっている部分がある。 ○セカンドブックについて、絵本だけではない選書に取り組みないか。 		

事業名	3 読谷村・嘉手納町相互利用協定について																																
事業費(千円)	0	自己評価	A・ B ・C・D																														
事業の内容	両町村民が図書館の相互利用を行う。																																
本事業の目標	両地域の住民の生涯学習の場の拡大と利便を図る。																																
進捗	・読谷村民の嘉手納町の利用者は前年より増加している。																																
成果	<p>○令和6年度実績(令和7年3月31日現在)</p> <p><嘉手納町立図書館における読谷村の登録者・貸出冊数・貸出人数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> <th>新規登録者数</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>3,308名</td> <td>179名</td> <td>25,125冊</td> <td>5,258名</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>3,667名</td> <td>361名</td> <td>33,792冊</td> <td>6,897名</td> </tr> </tbody> </table> <p><読谷村立図書館における嘉手納町の登録者・貸出冊数・貸出人数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> <th>新規登録者数</th> <th>貸出冊数</th> <th>貸出人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>173名</td> <td>4名</td> <td>536冊</td> <td>205名</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>168名</td> <td>6名</td> <td>772冊</td> <td>327名</td> </tr> </tbody> </table>			年度	登録者数	新規登録者数	貸出冊数	貸出人数	R5	3,308名	179名	25,125冊	5,258名	R6	3,667名	361名	33,792冊	6,897名	年度	登録者数	新規登録者数	貸出冊数	貸出人数	R5	173名	4名	536冊	205名	R6	168名	6名	772冊	327名
年度	登録者数	新規登録者数	貸出冊数	貸出人数																													
R5	3,308名	179名	25,125冊	5,258名																													
R6	3,667名	361名	33,792冊	6,897名																													
年度	登録者数	新規登録者数	貸出冊数	貸出人数																													
R5	173名	4名	536冊	205名																													
R6	168名	6名	772冊	327名																													
課題	・嘉手納町から距離的に遠く読谷村立図書館への町民の利用が少ない。																																
対策	・読谷村立図書館のイベント等の情報の発信も併せて行う。令和7年10月からの新館オープンの際も案内を行う。																																
点検評価員 のご意見	<p>○「読谷村・嘉手納町相互利用協定」に基づき、嘉手納町民が読谷村立図書館を効果的に活用できる方法等も検討してほしい。</p> <p>○新読谷村施設について、利用状況の推移を注視してほしい。</p>																																

外 語 塾

1 令和 6 年度における事業の概要

主要事業数	2 事業	自己評価	A	事業	A:目標を上回る成果 B:目標達成する成果 C:目標達成に至らず D:未執行
			B	1 事業	
			C	1 事業	
			D	事業	

本課における事業の総括

・平成 10 年 5 月 1 日に開塾し、国際化、高度情報化時代に対応可能な人材を目指して、実践英語、IT(コンピューター)教育を中心に、マナー講座、沖縄文化(琉球舞踊)、体育、キャリア教育講座の他、国際交流プログラム(オンライン 6 回、野外活動 3 回)、を実施。また、はたちの集い(旧成人式)等の町内イベントのボランティア活動も行った。

学校教育法にとらわれない英語に特化した全日制 2 年間の学校である。1 コマ 90 分授業。

	授業日数	コマ数
1 年生 (13 名)	221 日	858 コマ
2 年生 (8 名)	211 日	826 コマ

※卒業生進路状況 大学等進学 3 名 就職等 5 名(海外就職含む)

嘉手納基地内において約 4 週間のインターンシップ(2 年生)を実施し、実践英語での就労を体験することができた。

海外短期留学研修事業については、2 年生を対象に 4 週間実施した。

検定試験は、英検、TOEIC、情報処理検定各種、秘書検定の受検に取り組んだ。

2 主要事業の成果と課題

事業名	1 海外短期留学研修事業		
事業費(千円)	7,265	自己評価	A (B)・C・D
事業の内容	米国ユタ州セントジョージのユタテック大学語学学校に 2 年生 8 名を 29 日間派遣し、レベル別クラスの英語学習に取組ませる。更に各自それぞれが各家庭にホームステイし、ホストファミリーとの交流を通し生きた英語に触れ、実践英語を学ぶ。		
本事業の目標	外国の生活や文化などに直接触れ、海外の語学学校で短期留学を経験し、外語塾で積み上げた英語力の更なる上達を目指す。		
進捗及び成果	海外で異なる文化を経験し、視野を広げることができた。また、海外留学生との交流を通し、英語を活用し、意見を伝えることができた。学習の意欲を高めた。		
課題	会話力、コミュニケーション力をつけ、自身の意見を持ち、意見交換できる力を身につけたい。		
対策	あらゆる事柄に興味を持ち、自らの意見を発信できるよう工夫した授業の実施に取り組む。		
点検評価員のご意見	○「会話力、コミュニケーション力」については、事前指導の段階から意識して取り組んでほしい。 ○対策について、昨年度と同様の内容になっている。		

事業名	2 資格検定の取得						
事業費(千円)	—	自己評価	A・B・ C ・D				
事業の内容	各種検定の資格取得をめざす。英語検定、TOEIC、PC 検定など(受検料は個人負担)						
本事業の目標	英語検定は年3回、TOEICは年3回以上(全6回中)、秘書検定は年3回、PC検定は年4回受検し上級を目指す。						
進捗及び成果	在塾生 21名(1年生13名、2年生8名)						
	外語塾では、1日90分4コマの授業を実施。 そのうち7割が英語の授業。午前の部、レベル別(初級クラス、中級クラス、上級クラス)、6か月に1度、レベルチェックをおこないクラス分けを行っている。 英国や米国出身のネイティブ講師陣、日本人講師によるリスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの4技能の習得をめざしている。 午後の部は、学年別で英語、パソコンスキル、ビジネスマナー、琉球文化の授業を実施している。						
	英検においては、CBTの受験(パソコン上での受験)を併用。						
	〈英検〉						
		3級	準2級	2級	準1級		
	1年生	—	5名	5名	3名		
	2年生	—	1名	6名	1名		
	〈TOEIC〉						
		400点 ～	520点 ～	740点 ～	810点 ～		
	1年生	4名	4名	—	—		
	2年生	3名	2名	—	—		
	〈表計算〉						
		3級	準2級	2級	準1級	1級	初段
	1年生	—	—	2名	3名	7名	—
	2年生	—	—	—	—	8名	—
〈文書処理〉							
	3級	準2級	2級	準1級	1級	初段	
1年生	—	—	3名	1名	7名	2名	
2年生	—	1名	2名	3名	2名	—	
〈プレゼンテーション作成〉							
	3級	2級	1級				
1年生	—	—	13名				
2年生	—	—	8名				
〈文書デザイン〉							
	3級	2級	1級				
1年生	—	—	13名				
2年生	—	—	8名				
〈秘書検定〉							
	3級	2級	準1級				
1年生	5名	5名	—				
2年生	3名	5名	—				

課題	2 年間で資格取得を意欲減退することなく、モチベーションを高めるための取り組みが課題。
対策	学生一人ひとりの進捗をこまめに確認し、苦手を克服させ、達成感を持たせることで検定取得の意識を高めるよう指導する。
点検評価員 のご意見	<p>○各自、目標に対してどのように取り組むかの学習計画の作成及び確認の仕方等について検討してほしい。</p> <p>○課題、対策について、昨年度と同様の内容になっている。</p>